

(財)女性のためのアジア平和国民基金

第42回理事会

平成11年10月

10月7日付ハンギョレ新聞 第2面



일본군 위안부 할머니들 무료진료 받아

일본군 위안부 할머니 40여명이 6일 오후 수요정기집회를 마친 뒤 서울 종로구 여전도회관에서 아산재단 서울중앙병원 의료진으로부터 유혈성 독감 예방접종과 함께 무료 진료 봉사활동을 받고 있다. 사진제공/서울중앙병원

元慰安婦、無料診療を受ける。

6日午後、元慰安婦約40名は、水曜定期集会を終えた後、ソウル鍾路区所在女伝導会館にて、峨山財団ソウル中央病院の医療陣から流行性風邪予防接種と共に無料診療事務仕活動を受けている。

(3)

99.10.1. 東京(2)

元慰安婦の訴え棄却

賠償請求で 東京地裁 国際法の存在認めず

第二次世界大戦中、日本軍の従軍慰安婦にされた日本人の元慰安婦が、日本政府に賠償を求め、東京地裁に訴えた。東京地裁は、国際法の存在を認めず、訴えを棄却した。

原告は、戦中、内地に徴用され、慰安所に入れられ、慰安婦として日本人の兵士に強制性交せられたと主張し、日本政府に賠償を求めた。原告は、日本政府が慰安婦を募集し、慰安所に送り出した責任を負うと主張した。

被告は、慰安婦は日本人の兵士と自衛隊員とが慰安所を利用したと主張し、日本政府は慰安婦を募集し、慰安所に送り出した責任を負わないと主張した。

東京地裁は、原告の主張を認めず、被告の主張を認めた。裁判官は、国際法の存在を認めず、原告の訴えを棄却した。裁判官は、原告の主張は、戦後の事実であり、戦中の事実ではないと判断した。

原告は、この判決に不服をもち、上訴した。上訴審は、原告の主張を認めず、被告の主張を認めた。上訴審は、原告の訴えを棄却した。

原告は、この判決に不服をもち、再上訴した。再上訴審は、原告の主張を認めず、被告の主張を認めた。再上訴審は、原告の訴えを棄却した。

原告は、この判決に不服をもち、最高裁に上訴した。最高裁は、原告の主張を認めず、被告の主張を認めた。最高裁は、原告の訴えを棄却した。

99.10.2. 朝日

元従軍慰安婦
賠償訴訟棄却

「謝罪もないのか」

宋さん 国会の立法責任問う



判決後の記者会見で、怒りをあらわにした宋神道さん。11日午後、東京・霞が関の司法記者クラブで。

「裁判なんてやったこと
もなければ見たこともない
から、ほんとわかんなかった」。在日朝鮮人の元従軍
慰安婦としてただ一人、日
本政府相手に謝罪と賠償を
求めてきた宋神道さん。今
|| 宮城県在住、韓国籍 || は
かんないのか。謝罪もない

のか」と繰り返した。
迷った宋の提訴から六年
半。同様の体験を持つ人た
ちも支援者と交わり、「ど
うせ国は耳を貸してくれ
ないのでは」と平は思いな
がら闘ってきた。

国の責任を否定するさま
ざまな経緯に憤って来た宋
さんは「カネがはしくて裁
判やるのではない。日本の
国のクセを直さなきゃ」と
話し、提訴時に求めたのは
政府の謝罪文公布と国会で
の謝罪だけ。裁判所に「謝
罪だけでは裁判になじま
ない」と示唆され、一億二
千万円の賠償請求を加え
た。

十六歳のころ、だまされ
て慰安婦にされ、日中戦争
中、中国大陸を転々とした
——そんな体験を判決は認
定し、「苦痛と悲鬱を伴った
であろう」とまで述べた。
しかし、今回も法律論の
壁の前に請求はすべて退け
られた。
「なぜ、いいならいい、
悪いなら悪いと書かない。
判決ってのはそういうもの
なんだ」という宋さんは、
「国会議員がちゃんとやら
ないから裁判官もいい迷惑
なんだ」と国会の立法責任
を問うた。
「朝鮮人とか、よその国
の人を連れてきて戦をやっ
たことがいいことなのか、
悪いことなのか。また、日
本が戦争やったらお前たち
は行くのか」。怒った宋さ
んは金目録に集まった記者た
ちにそう問いかけた。「戦
争がいかに、二度としては
いかん、ということを若い
人に伝えたい」。裁判の中
で宋さんが最も伝えたくっ
たことだった。
同日夕、宋さんと弁護団
は控訴を決めた。

99.10.2. J.T.

COURT REVERSES PAST RULINGS

South Korean sex slave refused redress

The Tokyo District Court on Friday rejected a South Korean woman's demand for a formal apology and ¥120 million in compensation from the Japanese government for suffering she endured as a wartime "comfort woman."

Song Sin Do, 76, currently a resident of Miyagi Prefecture, says she was forced to serve as a sex slave for seven years through the end of World War II. She is the only Korean resident of Japan involved in a series of damages suits filed by former sex slaves.

Following Judge Kitaru Narita's announcement that the case was dismissed, onlookers in the court gallery booed the judges for handing down such a "cruel" decision, while outside the court building, Song's supporters chanted "unjust ruling."

One of the key points in the trial was whether the court would recognize Song's experiences as factually accurate. Another was how the court would judge the plaintiff's demand that the government be made responsible for failing to enact a law to compensate wartime victims in light of a previous ruling on former sex slaves.

In April 1998, the Yamaguchi District Court ordered the government to pay ¥300,000 to three South Korean former sex slaves, blaming the state for failing to take legal steps to pay them redress.

Friday's ruling, however, said that while the government has the option of passing legislation to provide redress, it is impossible to state that it has an obligation to do so.

Narita acknowledged that the plaintiff was forced into sexual slavery by the Japanese military but rejected all her claims, saying the government is not obliged to compensate victims as individu-



SONG SIN DO (center), a 77-year-old South Korean resident of Miyagi Prefecture, on Friday enters the Tokyo District Court, which later rejected the suit by the former "comfort woman" for a government apology and compensation. YOSHAKI MIURA PHOTO

als.

The judge also said that individuals do not have the right to sue the state and that the 20-year statute of limitations has expired.

"I have fought for six years expecting that the court would do something, but I guess I was wrong to come here today with hope," Song told the press after the ruling.

Her lawyers said that although the court clearly recognized Song's wartime experiences, it failed to comment on what steps the government should take to compensate her for her suffering.

"The ruling was in line with previous war compensation rulings and did not give the impression that they went over (Song's case) thoroughly," said Kunio Aitani, one of Song's lawyers.

Song also said that she does not want to appeal to a higher court "as the result will be the same," but her lawyers said the possibility has not been ruled out.

Attorneys for the plaintiff

said the acts of the Imperial Japanese Army violated various international laws, including the 1907 Hague Convention, and that the government is obliged to pay the victims redress.

They also argued that the government failed to punish the perpetrators, whose acts

also violated civil laws, and that they should have created a law to pay wartime victims redress.

Although the government admitted that the "comfort woman" system existed, it refused to recognize the damages inflicted on Song.

The government also said

the Meiji Constitution, which was in effect at the time, said the government does not bear responsibility for individual damages inflicted by the government.

Born in Zhongqing-Nandao, in the southern part of the Korean peninsula, Song was recruited in 1938 at the age of 16 by an elderly Korean woman, who told her she could earn a better living by working at the front lines, according to the ruling.

She was taken to a brothel called "Sekaikan," in Wuchang, a city along the Yangtze River, along with 15 other girls, the ruling says. She was later taken via military vehicle to several other brothels in different cities.

Japanese soldiers came to the brothels from morning until night, and she was obligated to service them regardless of her state of health, the court said. She claimed to have been forced to have sex with as many as 70 soldiers a day.

Whenever she refused, the soldiers and brothel managers beat her, the court said. The repeated beatings left her hard of hearing.

Forced laborer's damages appeal rejected

FUKUOKA (Kyodo) The Fukuoka High Court on Friday rejected the appeal of a Korean man seeking damages after being forcibly brought to Japan to work during World War II and falling victim to the atomic bombing of Nagasaki.

Presiding Judge Takashi Kawamoto upheld the Nagasaki District Court's December 1997 decision that recognized the government and former Mitsubishi Heavy Industries Ltd. as having acted illegally in bringing the late Kim Sun Gil to Japan and

making him work against his will.

However, the Fukuoka court ruled that Kim was not entitled to claim any damages.

According to the lower court ruling, because the pre-war Mitsubishi Heavy Industries had been dissolved, the company that replaced it cannot be held responsible for damages or unpaid wages. It also said Kim could not make claims against the state for illegal behavior under the Meiji Constitution, which was in effect at the time.

Kim initiated the suit in 1992 but died in 1997. He was seeking about ¥10 million in compensation and back wages from the government and Mitsubishi Heavy Industries for being forced to work at the company's ship-building facility in Nagasaki and being exposed to the atomic bombing.

The suit, which sought ¥124 million in unpaid wages and ¥10 million for his suffering, was based on a diary Kim kept at the time, describing his plight. When Kim died at the age of 75, his son took over the suit.

99.10.5. 終日版

旧日本軍慰安婦裁判

宋神道さんの請求退ける

個人への謝罪・賠償認めず

東京地裁

元日本軍慰安婦の宋神道さん（71）が「慰安婦問題」で日本政府に謝罪と賠償を求めた訴訟で、東京地裁は10月5日、原告の請求を全面的に棄却する判決を言い渡した。宋さんは、慰安婦として強制連行された経験から、日本政府に謝罪と賠償を求めた。判決は、宋さんの請求を全面的に棄却する。宋さんは、慰安婦として強制連行された経験から、日本政府に謝罪と賠償を求めた。判決は、宋さんの請求を全面的に棄却する。



支援者たちの応援に答える宋神道さん
—1日、東京地裁前（撮影・平文子）

宋神道さんは、慰安婦として強制連行された経験から、日本政府に謝罪と賠償を求めた。判決は、宋さんの請求を全面的に棄却する。宋さんは、慰安婦として強制連行された経験から、日本政府に謝罪と賠償を求めた。判決は、宋さんの請求を全面的に棄却する。

「謝罪もないのか」 怒り露わ宋さん

弁護士から敗訴を告げられた宋さんは「腹が切れた」と涙を流した。しかし、判決後の司法記者クラブでの会見では、怒りをあらわに「あんなに悔しい判決はない。謝罪もないのか」「いらない、慰安婦なんて言葉は聞きたくない」「国会議員がちゃんとやらないから裁判官も迷惑なんだ」とまくし立てた。

この間、東京地裁前に詰め掛けた二百人余りの支援者たちは、金田正太郎の判決を伝え聞き、怒りあらわに涙を流し、次々とハンドマイクを手に抗議の声を上げた。フィリピンでの従軍慰安婦裁判にかかわったフィリピン女性「フィリピン」の裁判所は最低だと思ってるが、下には下があることが分かった。日本の裁判システムは役に立たない。来

年の女性国際戦犯法廷で共に力を合わせて戦おう」「元従軍慰安婦が共に戦おう」「韓国」「ナタムの家」「院長で韓国の議員氏」「日本の未来を左右する重要な裁判であるのに、白の良心を捨て去ったかのようである内容で残念だ」

中下弁護士の司法責任を果たしていない。国民が誇りを捨てない助言がほしい内容だ。しかし、歴史の審判は必ず下る。あらゆる困難を乗り越えて取り組んでいく」

会見を終えて、裁判所前の支援者に取り囲まれた宋さんは、初めハンカチで目頭を押さえたが、促されてハンドマイクを手に取ると「みなさん本当にありがとうございます。裁判で負けたとは思っていません。こんなに多くの人に支えてもらってほんとにうれし。いつ死んでもいい気分だ。みんなも元気な顔して暮らさうから、あんまり怒って寿命縮めちゃうな。でも、もし私が死んだら線香の一本でもあげてくれ」と元気のいい笑顔で語り、支援者を逆

被害認定、請求は棄却

在日元慰安婦「立法救済も選択肢」
賠償訴訟

戦時中、中国で七十年間にわたる旧日本軍の従軍慰安婦にされ、計り知れない苦しみを受けたとして、高城県在住の在日韓国人、宋神道（ソン・シンド）さん（まが日本政府に請罪と二億二千万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、東京地裁は四日までに、請求を棄却した。

成田喜達裁判長は宋さんの被害事実を認めたものの「国際法上、個人が加害国に賠償を請求する権利は認められていない」と判断。また「当時、韓国の権力的作用で損害を受けても国は責任を負わない原則があったほか、被害から二十年以上経過しており賠償請求権も消滅した」とした。

一方で「悲惨な体験を負った人々に対し、立法で何らかの救済手段を創設することは立法上の選択肢の一つ」と指摘した。

慰安婦だったことを名乗り出ている在日韓国の女性は今も、宋さんだけ。従軍慰安婦問題では全国で八件の訴訟が係争中で、判決は四件目。

断続にすると、韓国・忠清南道に生まれた宋さんは一九三八年、「戦地で国のために働けばもうかる」とだまされ、中国・武昌の慰安所に連れて行かれた。終戦までの七十年間、中国各地の慰安所で、多い日は一日七十人もの相手をもせられ、殴られて耳が遠くなるなどの後遺症が残った。宋さんは九三年四月に提訴。国際法違反のほか、賠償などの被害回復を怠った「国の立法不作為」にも当たると主張したが、判決は「国会議員は立法で個別の国民の権利に対応した法的義務を負わない」と退けた。

「とにかく謝ってもらいたい。許されんよ、絶対」。日本の戦争責任を問い続け

た元従軍慰安婦の在日韓国人、宋神道さん（まが）の訴えは一日、退けられた。「このままでは死んでも死にたくない」との思いで裁判にかけてきただけに、判決後の力無い笑みが痛々しい。

十六歳から七十年間に及んだ悲惨な体験や後遺症を少しでもいやす判決にはならなかった。

法廷証言によると、中国の日本軍慰安所に連れて行かれた時は初潮もまだなかった。生理中でも妊娠しても休むことは許されず、断る度に日本兵や経営者から殴られた。

暴力で耳は遠くなり、酔っぱらった兵士から切り付けられた傷跡は今も右わき腹に。左腕には慰安所で彫られた「金子」の入れ墨が残る。戦後も兵隊に辱められる夢にうなされ続けた。

終戦後、日本兵から「一緒になろう」と誘われたが、日本に着いた途端結婚を破壊された。失策のまま、上野祭の列車から飛び降り自殺を図った。紹介された朝鮮人男性の元に身を寄せたが、その男性も亡くなり今は一人暮らし。

慰安所で二人の子供を出産したが、慰安所では育てられず、すぐ他人に引き取られた。中国残留孤児が肉親捜しで訪日する度に「自分の子供ではないか」と言われて泣かされた。

裁判官に「私の立場をどうする。ひびくと願った。何で朝鮮のおばの巻き込まれはきいてくれない」と訴えたことも。

国の姿勢が「今でも反省しない。もう八月に」感かいたため慰安所に入った。金は千円でついでに「一と償い」。

各地で講演に招かれ、「いまだに一度しつやいけなら」この訴えは多くの人の心を揺動させている。

99.10.5.

埼玉新聞

99.9.1. 日

「新ゴーマニズム宣言」批評本

評論でカット引用OK

「漫画、絵と文は一体」

東京地裁初判断

漫画「新ゴーマニズム宣言」を批評する本でカットを許可なく使われ、著作権を侵害されたと主張して、漫画家の小林よしのりが、批評本の著者らに販売禁止と2600万円余の賠償を求めた訴訟で、東京地裁は31日、小林さんの請求を退ける判決を言い渡した。漫画に出てくる文章だけでなく絵そのものの引用が許されるかが争点になったが、森鷗外裁判長は「漫画は絵と文が不可分一体となった著作物で、絵についても引用が認められる」と述べた。批評を目的とした漫画の引用をめぐる司法判断は初めてという。

問題とされた批評本は「豚っていた」。「日本の戦争責任資料センター」事務局長の上杉隆・関西大講師（日本近代史）の「脱ゴーマニズム宣言」（東方出版）。従軍慰安婦問題をめぐる小林さんの主張に反論するために1997年11月に出版された。この中で「新ゴーマニズム宣言」などの漫画の力（カッ）が無断で使われたため、小林さんが「（上杉氏の本は）絵に対する批評ではないので引用は文章だけで十分。絵の引用は正当な範囲を超えている」と

は、作者の主張を批評の対象とする場合でも、それを正確に示すには絵も引用する必要があると指摘し、引用されたすべてのカットを適法と判断した。判決後の会見で上杉さんは「小林さんの主張はアツい」と有効に反論できなかった。アの元慰安婦たちを傷つけていると考え、出版した。漫画の主張には漫画を使わなければならないと有効に反論できなかった。

想にも結論があり、いつの場合も結論はゴーマンなものとは考えないので、さして気にもならない。



とくに「新ゴーマニズム宣言」になってからは、登場人物の描写力が飛躍的に上昇、一目でこれは誰、あれは誰と分かってしまう。一方で「新しい

い。引用権が漫画に認められたのは画期的と語った。小林さんの代理人の中村裕二弁護士は引用本が、小林氏の名前と作品の人氣に便乗したのは明らか。

漫画評論家に朗報

漫画評論家の夏目房之介さんの話。これまでは出版社が漫画家とトラブルになるのを恐れ、正当なカットの引用でも原作者の許可を取るのが普通だった。それでは自由な評論が難しいので、昨秋から許可を取らずにカットを引用して評論を書き、本を出版している。絵の批評をする場合だけにカットを使うなど、著作権法違反を指摘されないように気を付けてきたが、それでもクレームをつけてくる漫画家やプロダクションがあった。今回の判決は漫画評論家にとっては朗報だと思つた。

拡大解釈が心配だ。半田正夫・青山学院大教授（著作権法）の話。本来、著作権法で認められる引用というのは文章だといふ前提で考えられてきた。しかし、これまでの裁判で写真や絵の引用が認められ、今回の判決で漫画の引用も認められるという司法判断が確立したのではないかと。判決が要件として挙げた「明確な区別性」と「主従関係」は、過去の最高裁判例を踏まえた妥当な判断であり、許容できる。ただ、特定の漫画のカットをアンダーネットのホームページに掲載するなど、判決を誤解して拡大解釈する人が現れないか心配だ。

99.9.1. J.T.

Chinese A-bombing victim files suit, seeks redress from Niigata company

NIIGATA (Kyodo) A 78-year-old Chinese man who was forcibly brought to Japan during World War II filed a lawsuit Tuesday against the Japanese government and a Niigata-based stevedore company, seeking damages in connection with the atomic bombing of Hiroshima when he was in the city as a prisoner.

Zhang Wenbin of China's Hunan Province, who filed the suit with the Niigata District Court, is also seeking compensation for being forcibly brought to Japan by the Japanese military.

The suit demands that the government and the Niigata firm publish an apology in Japanese and Chinese newspapers and pay ¥25 million in damages.

Four Japanese district courts — in Tokyo, Nagano, Kyoto and Hiroshima — are currently handling suits by Chinese for compensation for wartime forced labor, but Zhang's is the first case filed

by a Chinese seeking damages related to the atomic bombing, his counsel said.

According to the lawsuit, the Imperial Japanese Army took Zhang to Niigata in April 1944.

The plaintiff, who had been working in China's Hebei Province for a bank affiliated with the Chinese Communist Party, was forced to load coal and wood for the Niigata company, the lawsuit says.

He was forced to work more than 10 hours each day, the suit says.

Zhang was arrested in March 1945 on espionage charges for allegedly conducting anti-Japanese activities and was tortured during interrogation, it says.

He was sent to a prison in Hiroshima and was there when the atomic bomb was dropped on the city on Aug. 6, 1945.

He returned to China after the war but suffered from cancer of the rectum and from symptoms stemming

from the atomic bombing, such as an extreme reduction in his leukocyte count, the suit says.

Wartime remains found

BANGKOK (Kyodo) A skeleton believed to be that of a Japanese soldier who died during World War II en route from northern Thailand to Burma was discovered early this month in the northwestern border province of Mae Hong Son, local authorities said Tuesday.

Cherdchai Chomtawat, chief of the Khun Yuam District Police Station, told Kyodo News that some 26 items, including a metal plate inscribed with Japanese characters, a bottle of medicine written in Japanese containing 20 pills, some buttons and some eyelets were also found with the skeleton.

"The skeleton was found on the side of a highway ... It was lying flat with the face up, and the knee was also drawn up," he said.

日韓関係

社説

英語で政治家を表現するのは二つの言葉がある。「ポリティシャン」と「ステーションマン」である。前者は利権あさりの「政治家」という悪感を含み、後者は「国家と国民を愛して考える」「政治家としてのイメージが込められる」米国の連邦議員に「ポリティシャン」という言葉を「使おう」「わたしは、ステーションマンだ」と高らかに叫ぶ。

金鍾泌首相は「不倒翁」と呼ばれる政治家である。激動の韓国政治史を生き抜き、なやみ首相として絶大な指導力と影響力を發揮している。韓国で、これほど長期にわたり政治生命を維持できた政治家はいない。首相の人氣と政治力の秘密は、その一方で、首相には「頼み家」と良好な関係を築けなければ、アジア諸国から尊敬される立場を確保できない、という日本への思いもあった。

「売国奴」「万年ナンバー2」といった非難が投げ付けられた。日韓正常化の道筋をつけ、金大中拉致事件の政治決着を図った経歴が、こうした評価を生んだのであろう。また、日本の政治家への政治資金をめぐる疑惑もとどろきたされた。

その意味では、日韓関係の裏も表も知り尽くした政治家である。しかも、首相の行動の背後には、韓国を貧困から救い出し発展させたいと願う愛国心があった。日本との関係強化なしには、韓国の発展は難しいとの信念であった。また、日本も韓国と良好な関係を築かなければ、アジア諸国から尊敬される立場を確保できない、という日本への思いもあった。

日韓両国は、1979年の朴政権の崩壊以来、いかにいい関係を保ち続けてきた。これは、韓国の指導者が日本への理解を欠き、日本の指導者の韓国理解も深まらなかったからである。

こうした関係を好転させたのが、昨年の金大中大統領の訪日だった。また、金鍾泌首相の努力で日韓閣僚級会談が実現にこぎつけたことも、両国政府の意思の疎通をスムーズにしたのである。

だが、これで日韓の相互理解と協力関係が深まり定着したわけではなく、最近の韓国では、日本の右傾化

両国の未来のための礎に

日韓関係の歴史の節目で常に重要な役割を果たしてきた首相の公費としての来日を、歓迎したい。首相はいま、両国の未来に責任を負う「ステーションマン」としての歴史的使命を強く意識しているといわれる。

金鍾泌首相は「不倒翁」と呼ばれる政治家である。激動の韓国政治史を生き抜き、なやみ首相として絶大な指導力と影響力を發揮している。韓国で、これほど長期にわたり政治生命を維持できた政治家はいない。首相の人氣と政治力の秘密は、その一方で、首相には「頼み家」と良好な関係を築けなければ、アジア諸国から尊敬される立場を確保できない、という日本への思いもあった。

日韓両国は、1979年の朴政権の崩壊以来、いかにいい関係を保ち続けてきた。これは、韓国の指導者が日本への理解を欠き、日本の指導者の韓国理解も深まらなかったからである。

99.9.3. J.T.

WAR CRIMINAL BELIEVED IN SYRIA

French judge says Nazi should be tried in absentia

PARIS (AP) A French judge Wednesday recommended that accused Nazi war criminal Alois Brunner be tried in absentia for allegedly deporting 250 Jewish children to Auschwitz, where they perished, judicial sources said.

Brunner, one of the world's most-wanted Nazi war criminals who had served as a top aide to Adolf Eichmann, allegedly helped organize the deportation and murder of at least 130,000 Jews from Germany, Austria, France and Greece.

He is believed to have lived for years in Syria.

With the recommendation from Judge Herve Stephan, the case now goes to a French criminal court, which will review the legal aspects of the investigation and eventually set a trial date.

France placed Brunner under formal investigation for crimes against humanity in 1987 and has asked Syria for his extradition.



Alois Brunner

Despite multiple demands, Stephan was never allowed into Syria.

Syrian President Hafez Assad told French authorities during a visit to Paris in 1998 that "to his knowledge," Brunner was not in Syria. The issue of Brunner's whereabouts has been a nagging issue in French-Syrian relations.

"The (judge's) decision is very satisfying for the families of Brunner's victims, and it's a clear message from France that Syria is lying," said Nazi hunter Serge Klarsfeld.

Klarsfeld said Stephan's investigation included testimony from French and Syrian secret service agents describing Brunner's role in training Syrian secret service agents.

"Many independent sources have confirmed that he's there," Klarsfeld said, adding that under French law, he could not reveal more details about the case.

France requires strong evidence of the accused's presence on foreign territory in order for a court to issue an extradition warrant.

Klarsfeld said Brunner was responsible for the deportation of his father, and described him as "a zealous" Nazi who hunted down young Jewish children to fill the last convoys "to eliminate all trac-

es of Jewry from the earth."

The last sealed "cattle car" left France on July 31, 1944 — nearly two months after the Allies landed in Normandy — with 1,300 Jews, including 250 children.

The judicial investigation was prompted by a complaint from Klarsfeld on behalf of the Association of Sons and Daughters of Jews Deported from France.

Klarsfeld said he expected the trial to begin early next year.

In 1987, the German news weekly Bunte published an interview with photographs of Brunner, then alias Georg Fischer, outside his Syrian villa.

However, the 12-year investigation did not determine whether Brunner, a former SS officer, was still alive. If so, he would be 87.

In 1997, Greece said Brunner was in Syria, but that it could not seek to bring him before Greek justice because

it had waived its rights on the prosecution of World War II criminals.

Brunner was sentenced to death in absentia in France in 1954 for war crimes when the death penalty was still in effect.

The statute of limitations expired on those charges, allowing Klarsfeld to file suit for crimes against humanity on the basis of new evidence concerning the children.

Brunner was the commandant at the Drancy transit camp in France, where Jews were interned and stripped of all valuable assets before being transferred to the Nazi death camp at Auschwitz.

Last year, Maurice Papon, a former official in France's collaborationist Vichy government, was convicted of crimes against humanity for his role in the arrest and deportation of Jews from Bordeaux during World War II. A ruling on Papon's appeal is expected Oct. 21.

99.9.9. 毎日

日本に謝罪と補償求める
朝鮮中央放送によると、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の建国51周年慶祝中央報告大会が8日、平壤市内の4・25文化会館で開かれ、報告を行った張成南首相は「日本の過去の犯罪行為」に対する「謝罪と補償」を要求した。
大会には金永南最高人民會議常任委員長、韓成範書記、金鎭皓人民武力相（国防相）、金正日（キム・ジョンイル）総書記は出席しなかった。
【北京・共同】

「従軍慰安婦」・太平洋戦争被害者補償対策委員会が八月二十三日に発表した、清津市であった日本帝國主義による性奴隷的犯罪の一端について明らかにした真相調査報告書の要旨は次のとおり。(朝鮮通信)

最近、咸鏡北道清津市青岩区域芳津洞(解放前は鏡興郡豊海面芳津里)などで、日本軍が朝鮮占領中に設置、運営していた「慰安所」と、彼らによって虐殺された「慰安婦」の墓が発見された。

日本は一九三八年七月、芳津とコジンに「羅津方面日本海軍特別本拠地」を設け、多くの兵力を配置した。主な部隊は、羅津憲兵隊、第一船舶輸送司令部北鮮支部、船舶通信隊、船舶歩兵隊、第三十九陸上軍部隊、関東軍補給監部、大陸鉄道司令部など。

日本はこれらの部隊のために三〇年代中盤、「豊海楼」「銀月楼」という海軍専用の「慰安所」と性病検診所を設けた。「慰安所」の設置場所は部隊駐屯地から約一・五ほど離れた谷間(現芳津洞二十三人民班地帯)であった。当時の目撃者、南グヒョンさん(79)によると、「豊海楼」は三八年、元関東軍所屬の軍医が海軍基地から資材の供給を受けて建てた。銀月楼はそれ以前の三〇年代中盤、日本の建設業者が建設したと語る。

現在、建物の内部構造は若干変わったが、外部は基本的に当時のままである。両「慰安所」は元関東軍所屬の軍医が経営していたが、監視と統制は羅津憲兵隊の分遣隊が行っていた。「慰安所」を使用して十、四十の軍人らの相手を

たのは「羅津方面日本海軍特別本拠地」駐屯の海軍と憲兵らであったと証言する申ラクチョンさん(69)は、「毎週水、金、日曜日」に兵隊らが船に乗って上陸し、慰安所に集団で行って「慰安」を繰り返した。

(要旨)

清津市で発見された旧日本軍の「慰安所」に関する調査報告書

「従軍慰安婦」・太平洋戦争被害者補償対策委

強いられていた。

「慰安婦」らの平均年齢は十五、二十歳の朝鮮女性で、大部分が江原道をはじめ南側から「職業舞妓」「女子勤労挺身隊」「金儲け」などと言葉巧みに連れてこられた人々だった。

「豊海楼」には約二十五人、「銀月楼」には二十人程度が収容されていた。

彼女らは到着したその日から朝鮮名を奪われ、「はるこ」「はなこ」「よしこ」「きよこ」などと呼ばれ、朝鮮語の使用や外出、手紙のやりとりを禁じられた。このような動物以下の性奴隷生活に絶え切れず、南春子という朝鮮女性が逃亡を試みて失敗し、憲兵に逮捕され、拷問によって死亡した。遺体は放置されたままだったが、その後、南グヒョンさんをはじめ住民らがこれを見出し、明け方、憲兵らの目を盗んで死体をこっそり埋めた。彼女の墓は今も残っている。

最近、「慰安所」が発見されたのに続いて、七百三人の女性が軍「慰安婦」として東南アジア各地の日本軍の戦線に、分散配置されたという事実を記した「朝鮮軍司令部」の文書が公開された。

日本軍による「慰安婦」問題は、日本政府が深い罪の意識のもとで直接責任をもつて解決しなければならぬ国家的な問題であり、法に基づいた賠償、補償問題として処理されるべき問題である。現在、被害者と遺族らはむろん、国連をはじめとする国際機関と人権団体では、日本に対する法的責任を追求するとともに、国家的な謝罪と補償を求めている。

99.9.11. J.7.

Korean vet's pension suit fails

Court rules on appeal that compensation is up to state

OSAKA — The Osaka High Court on Friday upheld a lower court decision rejecting a suit filed by a late Korean veteran of the Imperial Japanese Navy demanding a pension and compensation.

Chung Sang Gun, who lost his arm during U.S. bombing in the Marshall Islands in 1943, demanded ¥10 million in compensation for his injury and mental hardship.

Chung, who lived in Higashi-Osaka, Osaka Prefecture, applied for a pension as an injured veteran after the war but was rejected because he is not a Japanese citizen.

The Osaka District Court rejected his claim in October 1995. Chung appealed before dying in February 1996. He was 75.

The lawsuit was then taken up by Chung's wife, who lives in Cheju Island, South Korea.

The court said the war pension law, which requires that

recipients be Japanese, does not violate the Constitution because it is up to the government to determine whether to compensate Koreans in Japan who were pressed into military service.

But the court went on to say that a "serious" problem exists in which Korean veterans have been denied compensation, causing enormous economic damage to them.

It also said the government should give its utmost consideration to the issue.

Chung's lawyer, Masao Niwa, called the ruling unjust and said the plaintiff will appeal to the Supreme Court.

Chung Suk Jin, 57, Chung's son, said through an interpreter that the court's call on the government to tackle the long-lingering problem was worthless.

"I think it is of no value to remark on the fact that Japan

does not compensate veteran Koreans," he said. "Japan colonized the Korean Peninsula, caused World War II and drafted Koreans as Japanese soldiers."

'Slavery' suit in works

LOS ANGELES (Kyodo) About 500 former prisoners of war in the United States will file a "slavery" damages suit next Tuesday in New York against Japanese companies they say used them as forced laborers during the war, a San Francisco-based citizens' group said Thursday.

The Alliance for Preserving the Truth of the Sino-Japanese War said the suit will be filed with the federal district court in New York by plaintiffs including former U.S. soldiers and Chinese and Korean people forcibly brought to Japan for unpaid work during World War II.

99.9.14. 日

16日から朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を訪問し、女性
の交流集会を開く「日本と朝鮮
をつなぐ女性のピースライン訪
朝団」（参加者88人）の団長で
社民党の清水淳子参院議員は13
日、国会内で記者会見し、「日
朝国交正常化を求める私たちの
アピール」を發表した。三木武
夫元首相夫人の贈子さんも呼び
かけ人に加わり、女性236人
が参加。訪朝団が平壤での集会
でアピールするともに、日本
政府にも提出する。

●日朝の国交正常化求める

清算を求める声明について、日
本政府に「これを対話の好機と
とらえ、正常化交渉を直ちに再
開するよう」呼び掛けている。
会見で清水団長は「88人は圓行
のチャーター便で訪朝し、経済
制裁解除のきっかけにしたかっ
たが、政府が認めずに残念だ。
集会では慰安婦問題や平和に向
けた女性の役割について話し合
いたい」と述べた。23日から訪
朝団と入れ替わりで平壤入りす
る三木さんは「いろいろな形で
お隣の国とよい関係が作れば
うれしい」と語った。

【堀山 明子】

99.9.15. 東京



従軍慰安婦のドキュメンタリー映画
について話すビヨン監督＝中央区で

韓国の元日本軍従軍慰安婦の女性たちを描いたドキュメンタリー映画「ナヌムの家」。「ナヌムの家Ⅱ」の上映会がビヨン・ミンジュ監督（ミミ）のトークが十五日午後五時から、中野区東中野の映画館BOX東中野で開かれる。ビヨン監督は、従軍慰安婦シリーズ完結編に当たる第三作「愚づかい」を完成させたばかり。「映画が、従軍慰安婦について考えるきっかけになれば」と話している。

映画『ナヌムの家』のビヨン監督 従軍慰安婦問題 考えて

ビヨン監督は、七年にわたって女性たちと付き合った。最後の撮影は、毎週水曜日に日本大使館前で開かれているデモの際に行われたが、雨にもかかわらず集まった女性たちは撮影がこれで終わりと聞いて「冗談じゃない」と信じなかったという。「このシリーズは私の青春が盛り込まれているのですから」

第三作は、来月末に山形県で開かれる映画祭で上映された後、来年春に都内映画館で公開予定。「耳を傾けて、いろいろな感情を味わってほしい」とビヨン監督は話していた。

上映会は入場料千円で、映画は入れ替え制。問い合わせは同館（電話53389）67800へ。

99.9.16. J.T.

CALLER LARGEST SUCH CLASS ACTION TO DATE

Ex-U.S. POWs sue firms for slave labor

NEW YORK (AP) Claiming they were forced into slave labor by Japanese companies during World War II, 500 American ex-prisoners of war are seeking an apology and millions of dollars from their captors, it was learned Tuesday.

A lawsuit, which seeks class-action status, was filed Monday before the U.S. District Court in Albuquerque, N.M., against five Japanese companies. It was described at a New York news conference Tuesday as the largest aimed at Japanese industrial firms that used POWs to produce war goods between 1942 and 1945.

Such labor is illegal under the Geneva Convention and various treaties that Japan's wartime government promised to honor, said Eli J. War-

ach, a lawyer for the plaintiffs.

The suit embraces families and estates of POWs who died, asks compensation for labor and injuries, and would bar the defendants from doing business in the United States, but names no money figure.

"Millions and millions. You can't put a price tag on this," Warach said. "This is filed not for revenge — although there is some anger — but to get justice."

In Washington, Japanese Embassy spokesman Tsuyochi Yamamoto said he could not comment on a U.S. legal matter.

"But we are well aware of the fact that during World War II we committed serious mistakes in colonizing neighboring countries and causing

tremendous damage and suffering to many countries, including the United States," Yamamoto said.

A State Department official, who asked not to be identified, said the 1951 peace treaty between Japan and the former Allied Powers included settlement provisions for most claims over Japan's actions during the war.

In addition, he said, the United States compensated "victims of Japanese aggression" under a program that began in 1948 and expired in 1977.

The defendants, Kawasaki Heavy Industries, Ltd.; Mitsui & Co., Inc.; Mitsubishi International Corp.; Nippon Steel Corp.; and Showa Denko, were described as the five largest users of POWs.

On Tuesday in California,

three former POWs filed a similar lawsuit under a new state law seeking reparation from Mitsubishi Corp., which allegedly held them captive during World War II.

U.S. records show more than 50,000 Americans — 36,000 military and 14,000 civilian — were prisoners of Japan during World War II.

Warach said his lawsuit comes more than 50 years after the war because evidence and information withheld by U.S. agencies during the Cold War was only recently declassified.

Several ex-POWs also said U.S. officials warned them in 1945 not to discuss their experiences.

U.K. ex-POW may sue

LONDON (Kyodo) A leading

British campaigner for the rights of prisoners of war held by the Japanese during World War II said Wednesday he was considering suing for compensation.

Arthur Titherington, president of the Japanese Labour Camps Survivors Association, responded to news from the United States, where a class-action compensation suit has been launched against five Japanese companies by people they held prisoner, by announcing the next stage of his own legal wrangles to settle the issue.

"I have instructed my lawyer to look at suing various Japanese companies for compensation for the suffering I endured when I was forced to work in a Taiwan mine for more than two years during the war," he said.

99.9.18. J. T.

Nanking Massacre suit plaintiff lodges libel suit

An 80-year-old Chinese woman, one of 10 plaintiffs awaiting a court ruling due Wednesday on a suit for Japanese compensation over the 1937 Nanking Massacre, filed suit Friday against the author and publisher of a book that claims she lied about being a victim of the Japanese killing spree.

The suit, filed by Li Hsin Ying, a resident of Nanjing, at the Tokyo District Court,

demanding that author Toshio Matsumura and Tokyo-based publisher Tentensha pay a total of ¥12 million in damages and publish an apology.

Matsumura's book, "Big Questions About the Nanjing Massacre," published last December, says Li has frequently changed her testimony about the massacre, and that this proves she did not actually experience the events she described, according to the

suit.

Li's lawyers maintain that discrepancies in her testimony involve only issues of minor detail.

Li said she found Matsumura's book insulting.

Li has testified that in December 1937, a Japanese soldier attempted to rape her in Nanking (now known as Nanjing) and that she was stabbed in the face and belly when she resisted. She says

she suffered 37 wounds and had a miscarriage.

Li and nine other Chinese women have filed suit with the Tokyo District Court demanding the government pay a total of ¥100 million in damages in connection with the Nanking Massacre as well as the germ warfare experiments conducted on humans by the Imperial Japanese Army's Unit 731 during the 1937-1945 Sino-Japanese War.

99.9.23. 産経

国の賠償責任認めず

中国人らの「被害は歴史的事実」
戦争責任訴訟

東京地裁

第二次大戦中、旧日本軍に、総額一億円の損害賠償を求めた南京事件や細菌戦部隊とされる「七三一部隊」の人体実験などで被害を受けたとする中国人とその遺族計十人が日本政府を相手

た訴訟の判決は初めて。原告側は控訴する方針。判決は原告らの証言などから、「日本軍が日本軍所屬の軍人から受けたと主張する加害行為を原告らが受

けたと認められる」とし、「多数の中国国民に甚大な戦争被害を及ぼしたことは疑う余地がない歴史的事実」と言及。そのうえで「わが国が真摯（しんし）に中国国民に謝罪すべき」とは明らかに述べた。南京事件については、「『南京虐殺』というべき事象があった」とは、ほぼ間違いない」と認定。「七三一部隊」による人体実験と人体実験等がされていたことは疑う余地がない」と

指摘した。しかし、原告が求めた損害賠償では「戦後の平和条約締結などにかかわる外交交渉によって決すべきものとの解釈が国際法上、一般論として確立している」と判断し、退けた。がえって原告を刺激

齋藤彦・日大法學部教授（近現代史）の話、「『裁判官は弁明せず』の金言があるが、判決は国と国とで決着のついていない問題だと棄却しながら、南京事件、七三一部隊の実態について徹底した証拠調べもせずに『疑う余地がない歴史的事実』と断じ、日本が中国国民に謝罪すべきだとの認識を示した。裁判官個人としては原告の言い分に賛成、と受け取られかねない。判決と整合しない個人的感想を付すのは、かえって原告の不満を刺激するだけではないか。裁判官の力量は認めめるが、判決に則した論理構成にすぎなかった」

99.9.23. 朝日

南京大虐殺
731部隊

被害認定「中国に謝罪を」

戦争被害者で
東京地裁 賠償請求は棄却

第二次世界大戦中に、旧日本陸軍「七三部隊」の人体実験や南京大虐殺の被害に遭ったとする中国人と遺族の計十人が、日本政府に総額一億円の損害賠償を求めた訴訟の判決が二十二日、東京地裁であった。伊藤裁判長は南京大虐殺、七三部隊の人体実験などの存在や原告の被害を真例の明確で認め、「わが国は真摯（しんし）に中国に謝罪すべき」と述べながら、賠償請求は棄却（ききょ）した。

原告側は「戦争の被害は」国家間で処理するほかに個人や民間の被害を救済するべきと主張し、賠償請求を求めた。伊藤裁判長は、加害国家に個人が損害賠償請求することについて「戦争は法と無関係に発生し、正邪の判定は不可能」と述べ、実態的には不可能との判断を示した。

訴えていたのは中国・南京市在住の李秀英さん（80）や敬蘭さん（80）ら。旧日本軍の不当行為で夫がを失ったり死亡したとして、国際法や当時の中国民法に照らして日本政府に賠償義務があると主張していた。

さらに「個人の正義の貫徹は紛争の火種を養い再度の戦争を招くため、請求を認めない方が人類の正義にかなう」として請求を退けた。

た。ただ「日中戦争は侵略でない歴史的事実。わが国はで、中国国民に莫大な被害を及ぼしたのは疑う余地のな」と付け加えた。

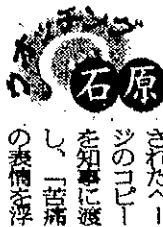
99.9.23. 東京

「自虐的な歴史は好まない」

社会科教科書で答弁

「日本の国の歴史のイメージをおぼろしいものに感じさせる教科書を私は好まない」。石原慎太郎東京都知事は二十二日午後、都議会本会議の一般質問への答弁で、歴史教科書についての見解を披瀝した。

自民党都議が、来年四月に都内の半分近くの地区で採用されるという小学六年生の社会科教科書の内容を取り上げて質問。「(古代の)人々がその土地で取れる品物を都へ運んでいく」という場面の想像図が掲載



された。原シのゴベットの知事には「苦痛の表情を浮かべ黙々と大きな荷を背負う人々。歴史を最初学ぶ六年生の子供に、日本という国は昔このようにして国民を酷使し苦しめた」と嘲り込もうとする狙いは明らかだと指摘した。

「ゴベ」を手にした知事は「暗くていかにも陰気ですな。人によって判断も違うだろうが、(教科書の配述など)を合わせる。結果として自虐的な歴史観を感じると答弁。

続けて「私は日本の古代や中世に暗黒があり、暗黒

靖国神社『都知事として行く！』

靖国神社
公式参拝

支配、被支配があったのは決して否定しない。どの国もそうだった。だが、それを拡大し、自分の国の歴史のイメージを相対的に暗く、やらしく、おぼろしいものに感じさせるような教科書を個人的に好まないし、正確な歴史の記述とも言えない気がする」と強調した。

一方、八月十五日の持つ意味を問われると、「私は終戦記念日でなく敗戦記念日と呼んでいる。日本人にとって処女体験である露民族の厳しい統治占領が始まり、五十数年たった今、日本人は下意識(意識されていないが思い出すことが可能な心の領域)まで解体され尽くした。日本は国の進むべき道を自己決定しているか疑問を感じる」と持論を展開。さらに、靖国神社への公式参拝について「近くに友人の会社があり、山向くたびに胸があれば参拝している。家内の父親も英霊。もし来年八月十五日に、遺族の方々から誘われれば参拝で参ります」と表明。

参拝から「知事がそんなことを言っているのか」とやじが飛ぶと、その方向をにらみつけながら「都知事として行くんですよ」とと語気強く言い切った。

99. 9. 23. 日

中国人戦争被害者
損害訴訟判決要旨

中国人の戦争被害者が損害賠償を求めた訴訟で、22日に東京地裁が出した判決の理由要旨は次の通り。

(1) 加害行為の存在 原告等がその夫らが日本軍や日本軍所屬の軍人から非人道的な加害行為を受けたことがおのおの認められる。

(2) 歴史的背景 本件当時(盧溝橋事件の起きた1937年7月7日から45年8月14日)、我が国が中国で待った軍事行動は異常な大規模な分がなく、十分な将来展望もないまま絶断的・過激な展開、拡大推進されたもので、中国及び中国国民に対する併呑の余地のない帝国主義的、植民地主義的意図に基づく侵略行為。多数の中国国民に甚大な戦争被害を及ぼしたことは疑う余地のない歴史的事実といふべきで、我が国が真摯(しんし)に中国国民に対して謝罪すべきであることは明らかである。

(3) 略

(4) 「南京虐殺」 37年12月13日、日本軍は南京を占領した。11月末の事実上の進軍から南京陥落後約6週間、あるいはその後数週間の間、数万人ないし30万人の中国国民が殺害されたとされている。この「南京虐殺」の内容、規模等を厳密に確定することができないが、事実があったことはほぼ間違いない。

(5) 731部隊 満州国に731部隊のための研究所が建設され、細菌兵器の大量生産、実験での使用を目的とし、そのため「丸太」と称する捕虜に対する人体実験も行われた。731部隊の存在と人体実験等は、疑う余地がない。

(6) 国際法上の法律論 国際法上、外国による戦争行為の被害の損害賠償問題は、個人が直接外国に賠償を求める権利を有するわけではなく、平和条約の締結等の外交交渉で決すべきだと解されており、この解釈は既に確立している。原告らが主張する個人の市民法レベルの正義を貫徹させることは、戦争や戦争状態が一応終結したのに、紛争の火種を残し、再度の戦争状態を招来する危険性すら有し、戦争防止の観点からして有害無益と考えるを得ない。再度の戦争や戦争状態を極力回避しなければならぬことが至上命題で、人類全体より大きな正義にかなうとすれば、その実現のため、個人の市民法的レベルの正義を犠牲にするに等しい結果にならうとも、戦争被害の賠償は個人が直接外国に請求し得る権利として認められない。

(7) (10) 略

(11) 結論 いかん非人道的なものとしても、本件当時における国際法及び我が国の法制上、原告らが我が国に直接賠償を求める法的権利は認められない。

99. 9. 23. 毎日

賠償訴訟判決

中国人「有害無益」判断に抗議 原告会見

戦争責任うやむや

「日本は戦争責任をうやむやにしようとしている。最後まで闘い抜く」。中国人の戦争被害者が日本政府に賠償を求めた訴訟の22日の東京地裁判決。判決後、会見した原告らは、裁判長が賠償を求めて訴えることを「有害無益」とまで断じたことに、涙を浮かべて抗議した。

敬蘭さん(77)は、731部隊の人体実験で夫や叔父を殺され、父は拷問を受けて死した。「判決は人道主義に立っておらず、強く抗議する」。敬さんは日本政府と裁判所に抗議文を提出するという。1943年11月、福建省で日本軍の爆撃を受け、右腕を失った高麗さん(60)は、23年がかりで戦争犯罪の

証拠を集めてきた。「裁判官は国際法を知らない小心者。真理と正義を広めるために闘い続ける」と話した。また尾山宏井護国長は、「個人の賠償請求を認めると、紛争の火種を残し、再度の戦争状態を招く」と

まで言っている非現実的な判決。国も主張していないことで、裁判官が独自の考えを述べたとしか思えない」と批判した。

非戦闘員の殺害
否定できぬ事実
野中官房長官
野中広務官房長官は22日の記者会見で、東京地裁が

南京虐殺や731部隊の人体実験の事実を認めたことについて「日本軍の南京入城後に非戦闘員の殺害や略奪行為があったことは否定できない事実」と述べた。

99.9.23. J.T.

STATE APOLOGY RECOMMENDED

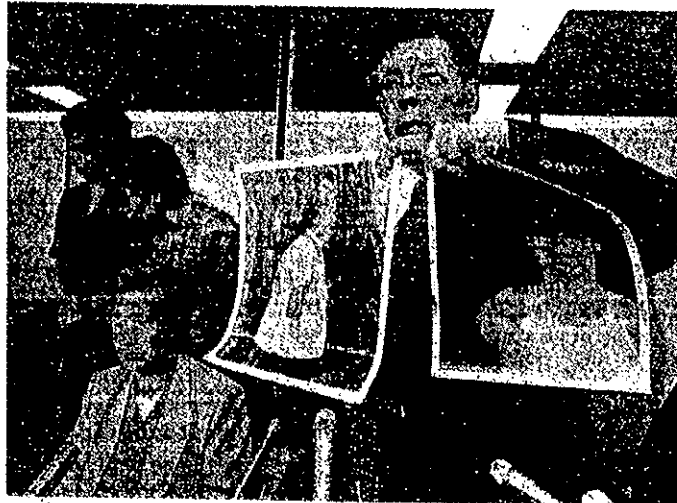
Court rejects Chinese war victims' case

The Tokyo District Court on Wednesday dismissed claims from 10 Chinese demanding a formal apology and ¥100 million from the state over suffering they endured due to Japan's wartime activities in China.

The court, however, acknowledged the claim by plaintiffs — wartime victims and their family members — and urged the government to apologize to the people of China to establish peace and friendly relations with its neighbor.

The plaintiffs specifically cited the activities of Unit 731, known for its germ warfare experiments on Chinese, the 1937 Nanking Massacre and indiscriminate bombing over a safety zone during the 1937-1945 war Japan waged in China.

It is the first court decision among lawsuits filed by Chinese seeking redress from the



GAO XIONGFEI holds up photos of himself and his mother showing how they lost their arms in Japan's bombing of a safety zone during the 1937-1945 war with China. Seated at his right is fellow plaintiff Jing Lanzhi. TOSHIKI SAWAGUCHI PHOTO

government for wartime damages.

Judge Ko Ito rejected the plaintiffs' claims, saying that,

even if they were treated inhumanely and justice for the individual was sacrificed, they do not, as individuals,

have the legal right to sue the government.

Ito also said the payment of redress for wartime suffering is a political issue and should be negotiated on the diplomatic level between the states involved and dealt with by a peace treaty.

It might lead to a state of war if the case were dragged on after the two nations officially signed a peace treaty, he said.

The plaintiffs' group said they will immediately appeal to a higher court.

During the litigation, which was filed in August 1995, lawyers for the plaintiffs said individuals have every right to sue the state, basing their argument on the 1907 Hague Convention.

They also argued that the court should deal with the case under the laws of the Republic of China, which now

CONTINUED ON PAGE 2

99.9.

南京虐殺・731部隊の損賠訴訟

東京地裁 原告の請求は棄却

争を回避するという人類全
体の正義にかなう」と述べ
た。中国人が日本政府を相
手に起こした戦後補償裁判
の判決は初。

(3面に判決要旨、社会面
に関連記事)

訴えたのは「南京虐殺」

かど原告の主張を認めた。
さらに、1937年11月
から12月にかけて南京の中
国人数万~30万人が殺害さ
れたとされる「南京虐殺」
▽34年以降に細菌戦部隊
「731部隊」が中国人捕
虜を「丸太」と呼び人体実
験に使ったこと――を歴史
的事実として認めたうえ
で、「侵略行為について我
が国は中国国民に真摯に謝
罪すべきだ」と述べた。

戦争被害についての個人
の請求権は「(請求権を認

める。紛争の火種を残し、再度の戦争状態を招来する危険性すら有する。個人の権利を認めることは戦争防止の観点からして有害無益」と指摘した。占領地での人道的待遇を定めた「ハーグ陸戦条約」(1907年)などに基づく賠償請求を退けた。尾山宏・原告弁護団長は「(個人の請求権は)有害無益という指摘は、裁判長個人の政治論に過ぎず、極めて不当な判決だ。直ちに控訴する」と話した。

99.9. J.T.

Koreans urge probe into massacre by U.S. Army

SEOUL (AP) South Koreans who say they survived a U.S. Army machinegunning of hundreds of refugees in the Korean War on Thursday demanded a formal U.S. investigation into what happened beneath the No Gun Ri railroad bridge in July 1950.

"The U.S. government can no longer deny its responsibility," they said in a statement.

The call came after an Associated Press news report in the U.S. on Wednesday that declassified U.S. military archives show U.S. commanders at the time issued orders to their troops to shoot civilians to guard against disguised North Korean enemy among columns of South Korean refugees.

The Pentagon said Thursday that any "compelling new evidence" would cause it to take another look at the long-standing allegations.

The South Korean government said it will investigate whether the survivors' claims are true or not.

"With keen attention, we'll try to verify the truth of all stated things concerning the case," Foreign Ministry spokesman Chang Chul Kyun said.

A dozen U.S. Army veterans backed up the core of the Koreans' account of the kill-



TAEJON, South Korea — Park Sun Yong, 75, wipes away tears Tuesday while telling how U.S. troops killed her son in July 1950 when they opened fire on South Korean refugees in a railway underpass. AP PHOTO

ings at No Gun Ri, a hamlet 161 km southeast of Seoul, in interviews that ran in the AP report.

The Koreans say 300 of their relatives and other civilians were shot dead at the bridge, and 100 others died in a pre-

ceding U.S. air attack. American veterans said anywhere from 100 to "hundreds" of civilians were killed.

Despite the surfacing of the declassified U.S. military records, Pentagon spokesman P.J. Crowley on Wednesday

reiterated the U.S. military's position on the Koreans' allegations, saying, "We just have no information in historical files to lend any clarity to what might have happened in July 1950."

No official Army account of the No Gun Ri events has been found.

But chief Pentagon spokesman Kenneth Bacon went further.

"If there's compelling new evidence to look at, obviously it would be important to make sure we've left no stone unturned in getting to the bottom of it," said Bacon, traveling with U.S. Defense Secretary William Cohen on a visit to Indonesia.

After years of futilely pressing their claim, the "Petitioners of No Gun Ri" group was jubilant over the U.S. news report.

"I looked up at the heaven and looked down at the earth, but there was no one who would listen to our sad story," said a tearful Chun Choon Ja, 61, her voice quivering.

"I have never been happier before. Now I can rest in peace when I die," said Park Sun Yong, 75, who said her small son and daughter were killed by U.S. soldiers at No Gun Ri.

99.9.27. J.T.

Ties with Japan rest on apology, North Korean says

NEW YORK (Kyodo) North Korean Foreign Minister Paek Nam Sun said Saturday that Pyongyang is ready to restart normalization talks with Japan but that improved relations would depend on whether Japan resolves to "liquidate its past crimes."

Speaking at a news conference after addressing the U.N. General Assembly, Paek said Japan would have to apologize for its 1910-1945 colonization of the Korean Peninsula and pay compensation.

In his address to the United Nations, Paek said, "Japan has not liquidated its past crimes vis-a-vis only the DPRK (Democratic People's Republic of Korea). Japan is miscalculating that if the DPRK were stifled, the settlement of its past crimes will also fade away by itself."

Paek is the first North Korean foreign minister to address the world body in seven years. He has so far met with his counterparts from eight countries, including Italy, Denmark, Iran, Singapore and Malaysia, according to sources close to the talks.

Pyongyang fired a three-stage rocket over Japan in August last year, and tensions escalated in recent months following reports that Pyongyang was planning to test-fire a Taepodong-2 ballistic missile believed capable of striking Alaska and Hawaii.

Japan suspended food aid and contacts, including talks

on normalizing diplomatic ties, after North Korea fired the rocket.

U.S. President Bill Clinton announced Sept. 17 that the United States would conditionally lift some of its sanctions against North Korea in return for Pyongyang's commitment to suspend missile testing as a means to pursue improved overall bilateral relations.

In high-level talks with the U.S. in Berlin earlier this month, North Korea agreed to freeze its missile program while the bilateral talks are under way.

Round of talks

SEOUL (AFP-Jiji) The United States will soon begin another round of talks with North Korea on improving bilateral ties after Pyongyang declared a moratorium on test-firing missiles, a news report said here Sunday.

"Under the bilateral accord in Berlin, the United States and North Korea will hold followup talks on improving bilateral relations," Yonhap News Agency quoted a South Korean government official as saying.

U.S. and North Korean officials struck a landmark accord in Berlin, under which Washington eased decades-old economic sanctions against Pyongyang. In return North Korea shelved its missile test-launch program.

77. 7. 28. J. 7.

New ambassador to U.S. slams suits by ex-POWs

Shunji Yanai, the newly appointed ambassador to the United States, has criticized the growing number of lawsuits filed by former U.S. prisoners of war seeking compensation from Japanese firms for forced labor and torture during World War II.

"That's absolutely unacceptable . . . because the (1951) San Francisco peace treaty stipulates the final and complete resolution of the compensation issue . . . between Japan and the Allied nations," Yanai said in addressing a Monday luncheon hosted by the Japan National Press Club.

Yanai, 61, a former vice foreign minister, was spelling out his views on Japanese-U.S. relations on a broad range of economic, security and global issues before he moves to Washington next month to embark on his new mission.

A number of lawsuits have been filed by former POWs in U.S. courts since a 79-year-old U.S. war veteran filed a suit in California in August against Mitsui & Co. and its subsidiaries, alleging he was forced to work in a Mitsui coal mine in Fukuoka Prefecture and was beaten by his captors.

The suit is the first filed under a new California law that allows victims of slave labor to sue multinational corporations in state courts.

Other U.S. states have also passed legislation allowing legal action — regardless of the statute of limitations — as well as nonbinding resolutions calling for a renewed apology for wartime practices.

Yanai claimed Japan paid compensation under the San

Francisco treaty, which also allowed for the freezing of Japanese assets.

"If we open the lid, then it raises a whole series of problems — not only Americans seeking compensation from Japan," Yanai warned.

But now that the lawsuits as well as the state resolutions exist, it is an "extremely serious problem" over how to resolve them, he said. "We cannot just ignore them, but things are not settled through government-level negotiations when it comes to judicial matters."

On other issues, Yanai pledged to work to maintain sound bilateral relations on several fronts.

He said trade friction may resurface, depending on the direction of both nations' economies and the trade gap, although Tokyo and Washington currently have no serious disputes, as they did with automobiles and semiconductors in the past.

But Yanai said he intends to continue urging the U.S. to follow international rules such as those of the World Trade Organization, arguing Washington "tends to push through with its own rules."

Referring to the ongoing dispute over Japanese steel exports, Yanai complained of the "rampant" use of the U.S. antidumping law.

Yanai also said Washington should stop making detailed demands over Japan's economic policy measures.

But he said U.S. Treasury Secretary Lawrence Summers has been making a "balanced" assessment by welcoming Japan's recent signs of recovery and calling for continued efforts to sustain them.

99.9.29.
朝日

論壇



金珠李

私は、旧日本軍に徴用され南洋群島タラワ島で戦死した金珠李の妻、李金珠です。

の一番では訴えが退けられたため、東京府裁判所に提訴しています。

戦争の傷償うのは日本の責務

先日、日本政府が在日韓国人の戦傷者、遺族に対し一時金の支給を検討しているという報道が、私の住む韓国にも伝わりました。しかし日本政府は相変わらず、「補償義務はなく、人道的な特別措置」という立場を述べています。私には激しい憤りを感じています。

私が代表を務める「太平洋戦争犠牲者光州遺族会」(本部・韓国光州市)は一九九二年、日本政府に公式陳謝と賠償を求める訴え(光州千人訴訟)を起しました。東京地裁で

る所もない子供、我が子を失った父母の悲嘆と絶望は言葉では表せません。六百万人以上の朝鮮人の苦痛、血、汗、涙を引き換えに、日本は戦争を遂行したのです。

戦後、日本政府は日本人の軍人・軍属には補償してきました。しかし、私たちに与えたような補償も陳謝もありません。死に通知を受け取った

日条約で解決済みとし、「補償は韓国の国内問題で、日本には責任も義務もない」としているのです。私は夫の戦死について、日本政府と交渉するよう韓国政府に依頼してはいません。夫の戦死は政府間の交渉ごとではなく、私個人と日本政府との問題です。私の夫を戦争に動員したのは日本です。日本に国家としての責

任と義務があるのは、あまりに当然のことです。だからこそ、日本と同じように植民地出身者を軍人・軍属とした英、仏、伊などの国は、戦争に動員した国家の義務として、植民地出身者個人に対して年々金その他の補償をしているのです。

私は、日本統治下の朝鮮で「日本人の直系遺族が韓国政府から三十万韓圓、当時のレートで十九万圓を受け取りました。これが夫の、韓国人の命の償いでしょうか。しかし日本は、韓

国民」として生まれました。日本の教育を受ける時、「日本は『万世一系』の世界第一の強国、良心的正義の国だ」と教えられました。毎朝、全校生徒が東に向かって天皇の武運長久を祈る四十五度の最敬礼をし、「我々は皇國國民なり。忠誠をもって軍國に報せん」と誓いを唱えました。神社で天照大神や明治天皇をまつり、神社の前を通る時には敬礼をしました。今の天皇が生まれた時、夜は提灯行列、昼には旗行列で、にぎやかなお祝いが行われました。

そして、「内鮮一体」「皇國臣民」「天皇の赤子」「二億一心」「一視同仁」という美名で、日本は朝鮮人を戦争に駆り立てました。かけがえのない多くの若者の命が戦場に散りました。過酷な労働現場で命を落とした者もいます。多くの若き女性も、従軍慰安婦として辱に耐え、六年の少女たちも日本の軍需工

場で働かされました。日本の敗戦後は、B級戦犯として二十三人が処刑されたほか、多くの者が長期間、刑に服しました。カラフトには四万三千人も閉き去りにされました。

また、朝鮮人労働者を「帰国させる」はずだった海軍特設輸送艦・浮島丸は、京都の舞鶴湾内で爆沈し、日本が認めているだけでも五百二十四人が死にました。

日本の心ある皆さん。我々も切れば血の噴き出る肉体であり、命ある限り生きんとする本能、家族への愛情を持った人間です。百万人以上の朝鮮人を、まるで戦争の武器のように使っただけ使い、敗戦後はゴミのように捨てたのでしょいか。日本人に、人間としての良心を取り戻してほしいと思います。

私はもう七十八歳。時間はあまりありません。

太平洋戦争犠牲者
光州遺族会代表 金珠李 投稿

主張解説

99.10.1
産経(夕)

在日韓国人の請求棄却

慰安婦訴訟で東京地裁判決

「第二次大戦中、旧日本軍の従軍慰安婦として非人間的な扱いを受けた」として、京城府の在日韓国人の宋神連さんらが日本政府を相手、国会での公式謝罪と損害賠償を求めた訴訟の判決が一日、東京地裁であ

ることを行った加害者が被害者個人に対し、直接に損害賠償を行った具体的な事例はなく、このような国際慣習法が成立していたとは認められない」として原告の訴えを退けた。

判決は原告の被害事実を認めた前提事実として、「慰安所の多くは民間業者による経営され、一部は旧日本軍が直接経営。民間業者の経営の場合でも、軍は設置・管理に直接関与した」と述べた。

判決によると、原告の在日韓国人女性らは昭和十三年ごろ、仕事の内容を知らないうちに、戦地で働くことを承諾し、中国・武昌の日本軍陸軍慰安所に連れて行かれた。これをきっかけに、終戦までの七年間、各地の慰安所で旧日本軍人から乱暴を受けた。

韓国人元徴用工の賠償請求2審も棄却
太平洋戦争中に強制連行され、長崎市の三菱重工業長崎造船所で被爆した韓国人元徴用工・金順吉さん、昨年二月、七十五歳で死去した遺族が国と三菱重工業を相手取り、損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決が一日、福岡高裁であった。川

本隆裁判長は賠償請求を退けた一審長崎地裁判決を支持し、原告の控訴を棄却した。

判決は、強制連行や強制労働について「当時の国民徴用令で認められた範囲を超え、違法」とした上、違法行為に国だけでなく当時

の三菱重工の関与も推認できるとした。しかし、「旧憲法下での公務員の権力行使による損害について、国は賠償責任を負わない。当

時の三菱重工は昭和二十五年に解散しており、現在の会社は債務を引き継いでいない」とした。金さんは三

99.10.2. J.T.

Revisionists write off Nanking massacre book as propaganda

Two university professors claimed earlier this week that "The Rape of Nanking," a controversial 1997 best seller by a Chinese-American writer, is a project of strategic propaganda to proliferate negative images of Japan.

Nobukatsu Fujioka, a professor of education at the University of Tokyo, and Shudo Higashinakano, a professor of intellectual history at Asia University, are both revisionist historians who have devoted themselves to reversing what they believe are erroneous perceptions that Japanese are war criminals, an allegation put forward in the book by Iris Chang.

Earlier this month, the two jointly released a book that challenged Chang's arguments in "The Rape of Nanking." They regard the Nanjing Massacre as a typical forgery of history concocted by the victors in World War II to tarnish the image of Japan for their own economic and political benefit.

In the book, Chang claimed that Imperial Japanese sol-

diers went on a rampage against Chinese prisoners of war and civilians on their way to Nanking and immediately after occupying the city, taking more than 370,000 Chinese lives. She also claimed the troops raped between 20,000 and 80,000 Chinese women during the occupation.

The professors stated that while they believe there were a number of Chinese combat casualties in Nanjing, there was no systematic massacre or atrocities by Japanese troops against civilians in the city.

During a press conference this week, Higashinakano maintained that "The Rape of Nanking" could hardly be called a history book as there are "at least 170 simple mistakes on historical facts," and because it has inappropriate references to documents.

He also said the author intentionally ignored more reliable sources that counter her arguments, while "solely fabricating" examples of Japanese atrocities in Nanking. He added that the death toll sug-



SHUDO HIGASHINAKANO gestures Thursday as he and Nobukatsu Fujioka present their views on the controversial book "The Rape of Nanking." HIRCSHI MATSUBARA PHOTO

gested by Chang is not supported by any reliable evidence.

Fujioka charged that the photos used in the book are either trimmed, shaded or given inappropriate captions to make it appear as if the Japanese troops carried out a systematic massacre.

Claiming that the fabrica-

tion of photographs is a typical ploy used in China's propaganda campaign, the scholar contends that "The Rape of Nanking" is not a book written by a single writer but a systematic anti-Japanese campaign by pro-Chinese forces in the United States, or possibly by Beijing. "The Rape of Nanking," re-

leased in 1997, sold more than 500,000 copies in the United States and was translated into Chinese through a Taiwanese publishing firm.

A Japanese publisher was to release the Japanese version of the book in March, but canceled the deal, claiming that Chang had refused to make corrections for the apparent errors in the text.

Chang, meanwhile, maintains that Japan and its people are unwilling to accept what she describes as evidence of the unprecedented atrocities and has demanded that the government officially apologize and pay compensation for the massacre.

Higashinakano claimed that the book will only bring unfortunate repercussions for future Japan-China relations. Fujioka added that such an anti-Japan campaign typified by Chang's book is only one part of what he calls "today's information war," and he urged the Japanese people to "appropriately appreciate" the nation's history to protect national interests.

99.10.3. J. T.

Holocaust fund closes with \$15 million left

BERN (AP) The deadline for applications to a Swiss fund to help Holocaust survivors passed Friday, with organizers saying there was still more than 22 million francs (\$15 million) in its coffers.

The fund has so far allocated 251 million francs (\$168 million) to about 310,000 survivors of the Nazis, with payments typically of between 550 and 2,000 francs (\$369 to \$1,342), fund officials said.

Some 88 million francs (\$59 million) has been distributed to Jews in Israel, with large sums also going to the United States and Eastern Europe.

Around 88 percent of the money in the fund is intended to help destitute Jewish survivors of the Nazis, while the rest is for non-Jewish survivors, including Gypsies, or Roma, homosexuals, the disabled, Jehovah's Witnesses, Christians persecuted as Jews, and political opponents of the Nazis.

The fund was set up by

Swiss banks and industry in 1997 under pressure from allegations that they helped supply the Nazi war machine. Its board of governors included representatives of international Jewish organizations.

It is separate from a \$1.25 billion fund set up by Switzerland's two big banks last August in an out-of-court settlement in the United States with lawyers in a huge class action suit.

Outstanding claims total 519,000 francs (\$348,000), but the fund still has the 22 million francs plus accrued interest to distribute. General secretary Barbara Ekwall said the interest was around 10 million francs (\$6.7 million) in 1999 alone.

She said fund organizers would decide in November what to do with the remaining millions.

New applications could still be accepted if they were considered to be hardship cases, the statement added.

99.10.6
産経
(5面)

河野外相就任

慰安婦談話／化学兵器処理…

先行き懸念の声



河野洋平外相

今次選挙の結果、長期にわたる政治的・社会的な不安が解消され、多数の女性の名が候補に立候補した。河野氏が外相に就任したことは、政府の外交政策に大きな影響を与えるであろう。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。

小淵第三次政権内閣で河野氏に就任した。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。

河野氏に就任した。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。

河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。

河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。河野氏は、戦時中の軍国主義の反省と、平和の道を歩むという信念を、自らの政治活動の基盤としている。

99.10.7. 産経

産経抄

小淵第二次改造内閣の河野洋平氏の外相就任について、中国や韓国は「歓迎」や「期待感」を示してきた。一國の外務大臣が海外諸國から、おぼえめでたく、温かい目で迎えられ、はいいことなのか。▼むしろ近隣との友好が進むと自体は悪いことではないが、しかし手放しでは喜べない。過度の懸念意識からか、友好の度が過ぎて甘く見られるようになれば國益を損なうたさう。河野さんはほかならぬ、謝罪外交の旗振りなだった▼平成五年八月、宮内閣の終わりの日、官房長官の河野さんがひたひたに深くしわを刻んで語った情景は、いまもあり、思い浮かべることが出来る。「慰安所における生活は、強制的な状況の下での痛ましいものであった。」▼急いで取り寄せた慰安婦調査報告書には、強制連行を明記した箇所は一つもない。その後、当時の官房副長官石原信雄氏は、韓国側の要請で行った聞き取り調査で「強制連行」という結論に導いたことを認めた。しかし、河野談話にはひとり歩きをはじめ、いまも慰安婦強制連行の虚説がまかり通っている▼河野

外相は就任会見でも、河野談話を修正することをしなかった。来日の江沢民主席が強調した歴史認識を小淵首相はきっぱりとはね返し、国民はこれを熱く支持したことはまだ記憶に新しい。その首相が、ことあるごとに、謝罪派を外相に登用した真意は何なのだろう。▼「外交官は祖國のために海外でウソをつく正直な人間」という定義があったが、外務大臣もまた海外からおぼえめでたい政治家である必要はない。国際関係は冷厳である。むしろ海外から一目置かれる人物、煙ったがられ人物であっていい。

1999.10.7

99.10.8 東京(夕)

独、強制労働で33億ドル提示

日本に影響も

被害者側は拒否、提訴の構え

【ワシントン7日共同】第二次世界大戦中にドイツ企業で強制労働に従事させられたユダヤ人らがドイツの企業、政府に賠償金を求めている交渉で、ドイツ側は七日、「最終額」として、総額三千三億ドル(約三千五百三十一億円)の支払いを提案した。これに対し、被害者団体代表は二百億ドル以上の賠償金が必要だとして拒否、法廷闘争を進めると表明した。次期交渉は十一月中旬にボンで開催の予定だが、大幅な上積みがないければ訴訟に持ち込まれる可能性が大きい。

最近、元米兵捕虜や韓国系市民による日本企業を相手にした強制労働の損害賠償請求訴訟が続いており、ドイツとの交渉の行方は日本との訴訟の行方にも影響を与えると思われる。

99.10.9 毎日

戦時中の強制労働に33億
第二次世界大戦中にドイツ企業
で強制労働に従事させられたユダ
ヤ人がドイツの企業、政府に賠
償金を求めている交渉で、ドイツ
側は7日、「最終額」として、総
額33億（約3300億円）の支
払いを提案した。
これに対し、被害者団体代表は
記者会見で、200億以上の賠
償金が必要だと拒否、法廷闘
争を進めると表明した。
【ワシントン共同】

99.9.3. J.T.

CAN LAWS CHANGE SOCIETY?

The slow road to sexual equality

Los Angeles Times

Earlier this year, a random sampling of "women only" classified job postings in major Japanese newspapers was mostly limited to low-end positions for nurses, housekeepers, textile workers and food-service workers.

"We need many more women," proclaimed one railway noodle stand company in the March 18 edition of the Asahi Shimbun newspaper.

"We need women under 25," said a more specific posting for secretaries in the Yomiuri Shimbun, the nation's largest newspaper.

"We welcome homemakers," said a third, for a cleaning job.

But as of April 1, advertisers had to drop such discriminatory language, and recruiters were instructed not to hire, at least officially, on the basis of sex or appearance.

These are among the most visible signs of recent legal changes designed to raise the status of women, loosen the hierarchical grip of old Japanese men and improve the nation's tarnished reputation at home and abroad as a laggard on social-equality issues.

In the last Diet session, Japan enacted a gender equality law that sets broad new principles for Japanese society. This followed revisions to the equal employment opportunity and labor standard laws that took effect in the spring. For the first time, the government created a definition for sexual harassment, outlawed workplace discrimination against women and put companies on notice that their behavior will be monitored.

On paper, this seems like a sea change for Japan, a society long known as a man's world where the kabuki stage, sumo ring and leadership of the Imperial family are still off-limits to women and

where, earlier this century, wives still commonly walked behind their husbands in public.

Critics, however, argue that the latest steps still amount to little more than a cosmetic makeover.

Japan's minister of gender equality is a man who has himself been accused of sexual harassment. The official, Hiromu Nonaka, suggested to a female Cabinet member that she should get married and, by implication, become pregnant, thereby setting an

Japan's minister of gender equality — the chief Cabinet secretary — is a man accused of sexual harassment for hinting indirectly that a female Cabinet member could do her part to help reverse Japan's low birthrate

example that would help reverse the country's low birthrate.

Furthermore, critics add, the language contained in the new laws is vague, calls on companies only to "endeavor" to change and includes no punishment for those who flagrantly disregard its provisions.

"It's very suspicious," said Chizuko Ueno, sociologist at the University of Tokyo.

But, said Saitoh Chiyo, editor of woman's journal *Agora*, "Japanese in general are very afraid of bureaucrats. It will have some effect."

A few recent, high-profile cases also suggest people's views are changing. A 21-year-old campaign worker for Osaka Gov. "Knock" Yokoyama grabbed headlines early last month when she filed suit against the governor for allegedly groping her in a van for 30 minutes. He denied it.

Even a year ago, such a case probably would have been silenced before it went

public. This time, 81 lawyers throughout the country have publicly backed the plaintiff in a nation where group support is a strong determinant of social opinion.

In another recent case, a prominent television producer was arrested on suspicion of molesting a 19-year-old woman on a subway, behavior that has long been tolerated here. The woman insisted on filing a complaint, and the producer was jailed for two days and forced to resign from his job in shame. "Men

are now telling employees to take down the sleazy calendars even as their public relations departments tout their newfound responsibility and harassment prevention policies.

Among the guidelines issued by one government agency: "Don't force a woman to sing karaoke with you," "Don't coerce her into dancing" and "Don't peep into her locker room."

Behind this pressure for change is a society with deep patriarchal roots. In prewar Japan, education was completely segregated by gender, with women effectively forbidden from voting or going to four-year colleges.

Gen. Douglas MacArthur's postwar writing of Japan's Constitution officially elevated women to equal status, but it was years before de facto change took hold.

The birth control pill was approved only in June, and Japanese women still hold just 9 percent of professional positions, compared with 44 percent in the United States.

Recent international comparisons rank Japanese women 19th in a 23-nation survey on their status in the workplace, while a U.N. study on their role in the Diet places them 38th out of 102.

"Japan is no better than a developing country," said an editorial on the parliamentary issue in the *Yomiuri Shimbun* newspaper. "There can be no doubt that Japan is still dominated by men."

Recently, however, Japanese women have been more willing to confront their antagonists. Sexual harassment complaints to local governments rose to 7,019 last year from 968 in 1995. And attorney Yukiko Tsunoda, who pioneered sexual harassment lawsuits in Japan, won a record \$62,500 in a recent case involving a graduate student and her professor.

The media have also gotten into the act with several articles on how to navigate this new social minefield, hints on do's and don'ts in today's office environment, and even some speculation on whether it is time for a men's liberation movement.

"Women are not the only ones," screamed a headline in *Aera*, a weekly trend magazine. "Men feel sexually harassed (too)."

And corporate executives

99.9.4. 産報(9)

女性への暴力理由は、何故に

夫や恋人による女性への暴力「ドメスティック・バイオレンス(DV)」の実態をつかむため、名古屋市は四日から被害体験を語ってくれる女性の面接調査を実施。市内の男女計二千人を対象にしたアンケートに近く乗り出す。

同市によると、男性を調査対象に含め、女性に暴力を振るう理由や頻度など「男の心理」を質問する大掛かりな意識調査は全国で初めてという。

十一月にもまとまる分析結果は、被害女性からの相談を受け止める窓口の新設など本格的な支援策に役立てられそうだ。

アンケートで実態調査

■名古屋市、2000人に近く実施■

名古屋市女性企画室などによると、意識調査は「日常生活における男女の意識と実態に関する調査」と題し、市内の二十歳以上の男女各千人に質問票を郵送して回収する。

面接調査は、研究者らで作る「女性に対する暴力研究会」(代表・戒能民江お茶の水女子大教授)に委託して実施。四日と六日に名古屋市内の会場で数人ずつを対象に行う。

同市内にはDVの被害女性を直接支援する窓口などはないのが実情で、同室などは「警察や市民団体との連携を深め、対策を具体化したい」としている。

99.9.8.産経

女性副知事7人

「男女参画」訴え

◆福岡◆

全国の女性副知事が男女共同参画社会づくりについて話し合う初めての「女性副知事サミット」がこのほど、福岡市の県国際文化情報センターで開かれ、「政策・方針決定の場における女性の参画の拡大を図る

とともに、地域特性に応じた施策を展開、人と地域が躍動する男女共同参画社会づくりに努める」との福岡アピールを採択した。

同サミットには、全国九人の女性副知事のうち、埼玉、山口の二県を除く青森、秋田、神奈川、静岡、愛媛、熊本、福岡各県から七人が参加。

元文相の赤松良子文教女子大教授が「女性の地位向上―世界と日本―」をテーマに

基調講演した後、パネルディスカッションを行った。

この中で、七月二十六日に就任したばかりの福岡県の北井久美子副知事は「新米の副知事ですが、少子・高齢化対策などに全力を挙げていく」と抱負を語った。

また、青森県の成田栄子副知事は「意思決定の場に参画できるチャンスが来たら、勇気を持って一歩踏み出すべきだと思う」と、女性に積極性を求めた。

99.9.9. 京都新聞 (26面)

アジア女性基金

女性への暴力解決しよう

15日に京で フォーラム 各国の現状紹介

財団法人女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）は十五日午後二時から、京都市左京区の国立京都国際会館で、女性への社会的差別や人権侵害の現状と解決への道を考える公開フォーラム「女性と暴力」を開く。

同基金は、元従軍慰安婦に対する償いと、女性への人権侵害や差別、暴力などの問題解決をめざし、一九九五年七月に発足した。市民や企業からの募金をもとに、フィリピンや韓国、台湾などの元慰安婦に一時金（二百万円）を支給する活動などを行っている。

公開フォーラムは、前日の十四日に同基金が開く国際専門家会議にあわせ、多くの女性に対する差別や人権侵害について考える。当日は、まず「各国の女性に対する暴力の現状」と題し、カンボジア人権研究所次長のメン・ホー・リアンさんや、「女性の行動調査」と女性のための法的行動「会議長のラニ・ジェトマラニさん、インドネシア女性連合のヌウル・カタシヤスカナさんらが、世界各地の現状と取り組みを報告する。

続いて「国連、国際社会の取り組み」と題し、国連人権高等弁務官事務所のア・パチエさんや同志社大の安藤正教授らが、国際機関での取り組みを紹介する。

参加費無料、定員は先着三百人。問い合わせは同基金 03（3583）9322へ。



女性への暴力
解決を探る

演劇公開フォーラム

對面法人・女性のためのアジア平和同盟革命主催の「女性と暴力」をテーマにした公開フォーラムが十五日、東京都左京区の国立東京国際総合館で開かれた。出席者は、女性への社会的差別や人権侵害について、世界各地の現状報告を踏まえ、問題解決の道筋を探った。

五年に達し、元従軍慰安婦に対する償いや女性への人権侵害、差別、暴力の解決を自指している。

フオーラムには市民約百二十人が参加し、まず梨本アジナなどを中心とする七カ國の現状が報告された。この中でインドネシア女性連合のヌウル・カタジャスガナさんは、混乱状態が続く東ティモール問題に触れ、「問題解決には日本のみなさんの協力が必要」と訴えた。このほか、難民やイン

続いて、国連人権高等弁務官事務所のジョン・パチェさんと同志社大の安藤に介教授たちが話し合った。パチェさんは女性の

人権離立に向けた活動の過程で非政府機関や市民の参加が欠かせないと強調し、「今後も教育や啓もうを通じ、日常の活動に結びつけることが大切だ」と話した。

「女性の人権守ろう」

海外の事例報告

「女性と暴力」をテーマに、武力紛争の際の性的暴力などの現状を知り、対応策を考える公開フォーラムが十五日、左京区の国立京都国際会館で開かれた。海外の専門家が難民手続を紹介し、女性の人權が守られる社会の実現を訴える

た。

フォーラムは元従軍慰安婦への償い事業を進めている「女性のためのアジア平和国民基金」（「アジア女性基金」）が主催した。同基金が十四、十五両日に開いた国際専門家会議に出席した七カ国の弁護士や大学教授らが現状を報告した。

カンボジアの人権研究所
次長、メン・ホー・リアン
グさんは、難民キャンプに
保安要員として駐留してい
る受け入れ国の兵士が、キ
ャンプ内の女性を暴行する
例が後を絶たないと報告
。「コロボなどと同じことが
起きないよう、外部の機関
が監視すべきだ」と話し
た。

パキスタンの弁護士、ムサラット・ヒラリさんは、同国の田舎に住む女性の八割、都会に住む女性の五割が夫の暴力の被害に遭っていると報告した。

朝月日 (朝刊)
京和附版

1999/9/16

(朝刊)
読売新聞

一女性と暴力テロママ
海外からも現状報告
左派、プーオーラム

女性に対する暴力の問題を海外の現状を踏まえて広く話し合おうと、「女性と暴力」をテーマにした公開

市京東区の国立京都市警察会館で開かれた。武力紛争や難民問題を抱えるアジア各国の弁護士や人権活動家の現状報告のほか、国連の女性問題への取り組みも紹介され、市民ら約百二十人が熱心に聞き入った。

第三次大戦での賠償問題
 ならず、女性の名誉回復と救済活動に取り組む財団法人「女性のためのアジア平和国民基金」が主催。世界の女性が直面している暴力の中で、特に武力紛争など過酷な状況下の暴力に焦点を当て、パキスタンやルワンダ、カンボジアなど七か国の女性専門家を招いた。

各名聞の現状を報告。パギス
フオリラムでは、七人が
生まれると周囲から「かわ
いそう」と言われるなど、
女性の地位は低い。自分で
選んだ相手と結婚しようと
した女性が親せきに統て撃
てられたる悲惨な例もあった」
と話した。

99.9.17. 朝日

20世紀 女性たちはこう生きた

写真やインタビュー、詩歌で伝える試み相次ぐ

戦前、女性労働者、反戦、消費運動、男女雇用機会均等法……。20世紀は女性たちにとってどんな時代だったのだろうか。今世紀が終わろうとする今、因習や偏見の無いながら女性の活躍の場を押し広げ、女性の地位を高めてきた人々を再評価しよう、という動きが盛んになってきた。写真集などが出版されたほか、十月初めには女性の詩歌を歌にするコンサートも開かれる。

八月末に出版された『女性たちの20世紀・100人 雑誌「たちよ」(シマシマ企画・編集)刊、本体価格三千円』はこの百年に活躍した百人の女性たちを、写真と本人の残した二、三の断片、断片で紹介している。

取り上げられた女性には、作家山口一葉、女性運動家早稲田ら、歌人野間鶴子、津田塾大学創立者津田梅子、社会主義運動家伊藤野枝、元国会議員市川房枝、洋画家三好節子、核物理学者湯浅年子、初の女性検事長上野恵子

さん、科学者橋本静江さん、元衆議院議員土井たか子さんら、様々な分野で活躍した人々だ。

知る人ぞ知る、という人も、明治初期に高知県で女性参政権を訴えた橋本静江は、選挙権がなければ納税義務もないとして税を滞納。「民権

だ。日中戦争のさなか中国で反戦運動をしたエスペランティスト長谷川テルは「私を殉国奴と呼んで下さってもいいです」。女性だけで初の日本一週飛行をした飛行士

の及位野衣さんは「男だけの空じゃない」。

筆者の一人麻島麗江さんは「取り上げた百人の陰には、彼女を助かし、世に送り出した母や姉、友だちなどの女性の群れがあった。突出した一人の女性だけでなく、群れとしての女性の力を頼みとしてほしい」と話す。若い読者からは「こんな女性がいれば、歴史をもっと知りたい」という感想が寄せられている。

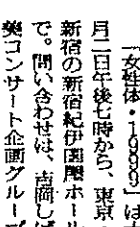
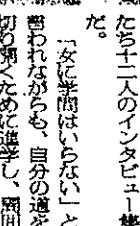
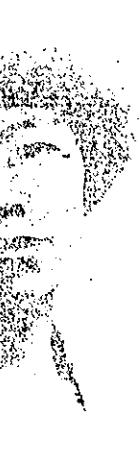
女性の言葉を刻んでおこす、という本も出された。六月に出版された『遺棄たる女たち』(遺棄婦、小林美恵子、高崎みどり著・梨の木舎刊、本体価格千八百円)は、作家の住井あやと日本婦人団体連合会会長の棚田あきさん、アトフラワー研究家の飯田深雪さんら一八九九年から一九〇五年までに生まれた今世紀の生き証人のような人々十二人のインタビュー集だ。

「女性に学問は関係ない」と言われながらも、自分の道を切り開くために進学し、周囲の反対を押し切って、看護婦、新聞記者、研究者、など

地位向上の功労者再評価 歴史に埋もれた人々に光



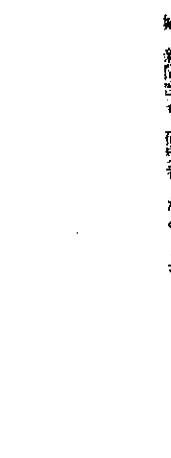
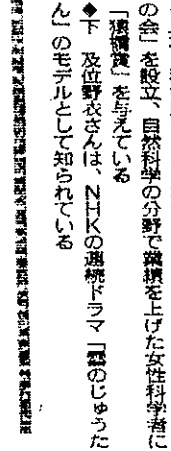
女性の詩歌をピアノの弾き語りで歌う吉岡しづみさん



◆上野 雅博さんは81年、「女性科学者に明るい未来をのぞく」を設立。自然科学の分野で業績を上げた女性科学者に「雅博賞」を与えている。

◆下 及位野衣さんは、NHKの連続ドラマ「星のじゅうたん」のモデルとして知られている。

市川房枝さんは、戦前は女性労働者運動をリードし、戦後は女性の地位の向上や金融政治の適度に尽力した。



99.9.18 東京

●『みんなの体操』お披露目

郵政省が戦後制定したラジオ体操を、半世紀ぶりに見直した新体操『みんなの体操』が十七日、同省内で初めて披露された。

●『みんなの体操』お披露目

郵政省が戦後制定したラジオ体操を、半世紀ぶりに見直した新体操『みんなの体操』が十七日、同省内で初めて披露された。

の越境者の難民認定などを求める要請書を東京・赤坂の駐日国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に提出した。

●海外児童買春で注意促す
金品を与え十八歳未満の児童との性行為を禁じる「児童買春禁止法」が十一月から施行されることか

ら、運輸省は十七日、日本旅行業協会などを通じ全国の旅行会社に「海外ツアー客や現地の手配業者らに対する同法の周知徹底」を求める通知を出した。

同法によると、児童買春をした者は三年以下の懲役か百万円以下の罰金。勧誘やあっせんをした者もほぼ同等の処罰規定がある。

99.9.19. J.T.

Working women in Japan find it tough to have a family, too

Some 500 working women nationwide exchanged business cards and ideas during the fourth annual International Conference for Women in Business Saturday at Hotel Nikko Tokyo in Tokyo's Minato Ward.

But it was emotional support they sought.

After a workshop at the conference, a group of five women clustered together, discussing difficulties they had finding child care.

"The infrastructure just isn't there," said Younghee Michelle Kim, vice president of Debt Restructuring and Special Investments at Goldman Sachs Japan. "They want us to have more children, but it's just impossible to get back home in time with

a full-time job to pick up the children by 5."

In the halls, many conversations revolved around the difficulties of balancing a full-time job with marriage and child-rearing, due to inflexible schedules, fears of losing a job or being demoted by taking maternity leave and the scarcity of role models.

Solutions were suggested by Bernadette Grey, editor in chief of Working Woman, a U.S. magazine aimed at female executives and business owners. Grey spoke of programs at work that allow women to pursue part-time management tracks to allow time for both children and careers.

During her keynote speech, Grey said U.S. companies are

beginning to offer job-share programs, in which two women share one position, with one woman working, for example, Monday to Wednesday, while the other works Wednesday to Friday.

"I feel lucky," she said. "There were women before me who broke the barriers. You are the pioneers here."

First begun in 1996 by a group of female entrepreneurs to provide a national forum for women in business to network, the conference this year offered workshops on topics such as honing online research skills, free-lancing and starting up a business.

In Japan, women made up only 2.4 percent of middle managers in companies with 30 employees or more, ac-

cording to a Labor Ministry poll taken in January and released last month.

More help for temps

The Labor Ministry is seeking to expand coverage of the government's unemployment system for part-time workers and staff from temporary labor agencies in April 2001, ministry sources said Saturday.

The step is intended to cope with an increasing number of workers with short-term contracts amid deregulation in the labor market.

At present, part-time and temp workers eligible for the insurance system are required to meet three conditions — continued employment of one year or longer at

the same place, at least 20 working hours per week and annual income of ¥900,000 or more.

The ministry is now considering lowering or scrapping the annual income requirement, the sources said.

The unemployment insurance system for part-time and temp workers currently covers only 60 percent of such workers.

With the revised Manpower Dispatching Business Law taking effect in December, companies are expected to use an increasing number of temporary workers.

The revised law expands the hiring of temp workers to all fields in principle from the 26 occupations under the current law.

供給源を断て

旅券返納命令を積極運用
ブローカー帰国させ摘発

「死刑、無期もしくは長期（二年以上の罪）で逮捕状が出ている容疑者については、旅券の返納命令が出せると規定されている。

警察庁はこうした規定に基づき、外務省からローカルに旅券返納命令を出すよう要請。外務省はこれを受け、現地の大使館などを通じて容疑者の旅券を没収する。

ない不法滞在者として扱われて日本へ強制送還されることになり、国内に送還される段階で逮捕状が執行される。

警察庁では「旅券返納命令を適用した捜査手法を確立し、海外に居住するプロローカルの捜査を積極的に進めたい」と話している。

ト
ラ
フ
イ
ツ
キ
ン
グ

舞臺序中、トフィッキンク 船を占めて最も多く、タイの三
 才策士として、旅券の返納命令を 向四十二人、フイリビンの二百
 四用する度、手法の積極運用を 十七人などとなつてゐる。
 打ち出した舞臺には、國內で取 警察庁によると、こうした女
 り締まりを強化しても、女性を 性の中には、現則のプロローグ
 俗音楽者から旅券を取り上げら 約
 れ、借金返済を目に光背を強要さ 組
 れるケースも目立つてゐる。 組
 然るに、トフィッキンク問題につい 約
 ては、国連や露を含む主要八カ 組

められてはいる組織犯罪対策条約の付属議定書で、各国が取り巻くべき施策などが盛り込まれ予定になっている。

また、G8でも昨年の「バーミントン宣言」に於いて、「人権と民主主義を促進し、法の支配を確立する」という原則と行動計画として各国が①国内法そのものの強化に資する規範的

るなどが掲げられており、十一月にモスクワで開催される司法・内務の関係閣僚会議で報告される。

警察庁「人の密輸」根本的解決に動く

昨年一年間に風俗関係事案に
関与したとして摘発された外国
人女性は一、五〇二・一三人（対前
年比六・八％増）。国別では韓
国が四、百九十七人と全体の三割

らにだまされ、多額の借金を負
わされて日本に連れられて来られる
トシフィッキングの被誘に遭う
ケースも多く、プロローグや風
刺では、来年をめどに策定が
け、今年三月には「『人』の密
わC8間の情報交換を容易にす
る」旨の密輸者、密輸
組織、その動向および手口につ
いての情報収集および分析を
含む。

のルートが存在するとみられ、
 そういったルートを根本からす
 べてつぶしていかなないと、トラ
 フィッキングはなくなるらない」
 (警察庁幹部)としている。

不法に入国させられ、風俗業界などで働く外国人女性には後を絶たない。「トラフィッキング」対策として、旅券返納命令を活用した捜査手法が期待されている。

99.9.20. 東京

先々週の上曜の夜であったか、テレビの、お父さんのためのワイドショー講座とやらをぼんやり見ていると、女優の沢田亜矢さんの離婚裁判の続報がランクに挙がっていた。女優の離婚騒ぎはそんなに珍しいことではない。ただ、沢田さんの場合、夫の暴力を具体的に明らかにしていたので

平成駆け込み寺も苦闘

「みずら」は一九九〇年、女性たちの相談・避難場所としてスタート。最初、助けを求めてきたのは、タイ、フィリピンからやってきた女性たちだった。高額の借金を背負わされ、日本で売春をするために連れてこられた女性たちは過酷な耐

えられず、見張りの目を盗んで逃げた。当時、その売春ルートを解

れずにやって来る例が増えてきた。女性たちはそれぞれドラマを抱えてきたが、なかなか明かそうとしない人もいた。

三年前の夏、子供を連れてやって来た主婦は、夫とコミュニケーションがうまくいかないと、三月間滞在した。その時、

た。夫の暴力による皮下出血が原因とみられた。「みずら」の女性たちの衝撃は大きかった。なぜ夫の暴力に気付かなかったのか。避難を断った中にあの女性がいたのかも知れない。深い悔いに襲われる一方で、新たな決意がよみがえってきた。



吉永春子



夫が爆発しないよう、顔色を察しながらいよいよ、顔を

ている女性は「ゴマン」と思われるが、一方で沢田亜矢さんに対して、真偽のほども分からないことをあけすけにしゃべる必要があるのかと批判も出ている。「みずら」の行く道もいっそう険しくなりそう。

(テレビディレクター)



女性の手は男性の手よりも温かいこと。そして、女性のすべり脚人が滑りにくいの温かい手と生の魚でこねる奥を奥れば、魚の新鮮さがなくなる。

私の知人、金澤市教士とこれ大驚。元教士と思つたが、そうではなかった。

日本人が女性の風かい手で開かれた生の魚は新鮮な味とよく通ずる味で、この大珍味し店ではないかとこの大珍味し店チェーソンの社長は驚いた。日本に女性のすべり脚人がいないのはもったいないとせいたまふ。

その社屋前庭に、女性の手のすべり脚子になる女を招くではないばかりか、彼の会社には、女性もすべり脚人の仕事が増えるように、作業場の取組を計画しているところだ。例へば、同社中央事務所に現在、マダモ・大宮商店と定まっているが、それが普通であるため、同社の各チェーソンの店に送る際に小さくて煩雑しやすき切身にして作業は、女性には不可能なのだといふ。

同社の持ち場の店にはすでに、市人の女性社員が所属されているといふと驚く仕事をしている。たゞ、その同様に触れないとダメだ。最終試験

女性すし職人はご法度

別に文句を書いた人はいない
 といふ。
 女姓の手の一件のような迷
 信めいた話ば、出所があいまい
 になまふ、外国人、そしてた
 だ日本人を嫁贖している以
 上に深く日本社会に浸透して
 いる、膨大な迷信の一端に遇
 する。
 迷信全体のうち表面化する
 る。その他の迷信が耳目を集め
 ることはまずない。森山真直は
 氏は官房長官時代、優待力上
 に總理大臣杯を獲与しようとい
 したところ、日本相撲協会に
 主権に上がるのを嫌はれられ
 た不満を諷刺、マスコミを
 にぎわした。女性が「神童」
 なる土俵を「汚す」のはまか
 しい。

る。

一部の迷宮は決して公にされることはいない。というが、当然の前通きで国内マスコミでは取り上げるに値しないとみなされるのだ。

日本最大の自動車メーカーが竊盗計画のたびに占い師を呼んで、新しい建物や工場への向きについておろかがいを立てる。

ったりの「縁起の良い」名前を
 つけよう」と相談した古い師
 から、彼自身の名前が「縁起
 が悪い」と指摘されたから、
 と彼は説明してくれた。私は
 それまで、日本人が姓名を蕭
 々々凛々とした面影を氣にして
 いるとは知らなかった。
 一九七二年中は東の方面へ
 の旅行は避けるべきだと古い
 現実にして広く受け入れられ
 て、世界第二の経済大国にな
 りては想像しても着ないほどに
 大の影響を日常生活に及ぼし
 ている。
 先のすしチェーン店の経営
 者は、「女性の手」という迷
 信に挑戦したいとながらも
 も、慎重に動いている。同社
 専務は、女性従業員だけのす

サム・ジェームソン氏 在日三十五年のベテランジャーナリスト。前口サンゼルス・タイムズ東京支店長。「サム・ジェームソンの目」は毎月一回掲載します。

社会に浸透する迷信、進歩の妨げも

のはほんの一部、企業が求人
型を指定するようになってきた
のである。日本のホテルなど
「四」の階がなかったり、欧
米人に敬愛を蒙って「十三」
の階がなかったりするところ
に、日本人が持つ数字へのこ
こなけりなみてとれる。ま
た、日本のどのカレンダーも
黒いのが目玉の目柄を明示し
ば、神々が怒るとされている

りならん、といわれたとい
う。
通婚者の女性官僚が戦時中
のトンネルを掘削したと述
べ、マスコミが注目した。山中の
工事現場で女性が防犯の物を
許されたのは初めてだったか
ら、山中には神々がすんで
いて、みな女性だと、現世
の女性がその領域に侵入すれ
ば、神々が怒るとされている

でているなど、だれが考えようか。トヨタ自動車は奥は、新工場建設のため既に風水師を使っている。同社の親田幸一郎前会長が以前、私との会見で語ったことである。

二十代半ばの知人の一人から、ちよと各館を案内することと決めたと言ふ、といわれたと妻の驚きはいまも忘れない。自分の子供に蘭数がひ

師に言われた当時の佐藤栄作は、首相は、カリフォルニア州二ツリオンポルト・ビーチでの二ツソート大統領（当時）との会談に向かう際、直行便を拒否。代わりに特別機で、北一に飛び、アラバマでの給油着陸を経て、「南」に転じ、ロシアセルズに到着した。

迷情はむろんどこにもある。日本ではかし、迷情は、

「男性のすし職人二人に対して女性職人一人という比率で始めることになるだろう。静かに、宣伝抜きでね」と、社長は語る。

迷情には風変わりで面白いものもある。迷情はしかし、驚きしいまでの進歩の妨げと

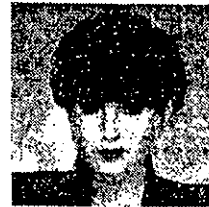
99.9.22. 朝日

子どもたちに「心の傷」

黒柳徹子さんの「コソボ」報告



一万人以上の死者と約八十五万人の難民を出したコソボ紛争。多くの「黄の遺産」を残したが、一番の犠牲者は何の罪もない子供たちだ。彼らの多くは、通う学校すら破壊され、いまだ約百万個が埋められているといわれる地雷に抱ひえる生活が続く。国連児童基金（ユニセフ）親善大使として、七月にコソボ自治州などを訪問した黒柳徹子さんに、現地の子供たちの様子を聞いた。



黒柳徹子さん

黒柳さんは、七月十三日から七日間の日程で、アルバニア、マケドニアの難民キャンプやコソボ自治州の学校などを訪れた。

マケドニアの約三千人を収容する難民キャンプ。五歳と七歳の姉妹は、両親が殺され

学校荒れ、地雷残る 笑い忘れ、眠れぬ夜

空爆停止後、ふるさとに向かうバスの中で笑顔を見せる難民の子供たち。彼らに本当の笑顔が戻るのはいつの日か／撮影・菊地洋行
11月6日、マケドニア・ブラツェの国境検問所

「コソボ紛争 セルビアの中止しようと迫る強めたたソボ自治州を舞台にした、アルバニア系住民とセルビア人の民族紛争。コソボの住民の九割を占めるアルバニア系住民が独立を要求。これに対し新ユーゴスラビア政府が、阻

の根拠した小学校では、窓ガラスが割れたままだった。「地雷教育」も、今のコソボでは生き残るために重要だ。教員代わりのある民家では、先生と生徒でこんなやり取りが交わされていた。

先生「ジュースの缶が、畑に落ちていたら、どうしますか？」

生徒「そばに行ってみます」

先生「だめです。ジュースの缶は地雷が仕込まれているんです」

「こんな教育をしていたら、アルバニア人とセルビア人の憎しみ合いは続く。思わず、抱いて頭をなでました」

別の七歳の女の子、オーロラちゃんには、兵士から銃を突きつけられ、父親が銃殺された。その時の「心の傷」はいえな

い。夜寝ていても怖くてすぐ起きてしまい、一時間以上泣いて眠れないという。

黒柳さんは、オーロラちゃんをひざに抱いた。「でも全然笑わないんです。感情が止まってしまっているようだった。お父さんのことがトラウマ（心的外傷）になってしまっているのです」

難民キャンプからコソボに帰還しても、子供たちは、十分な教育を受けられる環境にあるとはいえない。ユニセフの調べでは、コソボの学校のうち、六三％が破壊され、八六％の学校で電気設備が壊れている。トイレの使えない学校が九三％もある。黒柳さん

99.9.23. J. T.

Women face more inequality in former communist bloc

GENEVA (AFP-J1J) Women are facing increasing inequality across Eastern and Central Europe and the former Soviet Union, since the Communist bloc crumbled, according to a UNICEF report released Tuesday.

The report says that while the communist system failed to promote a real culture of equality, it nevertheless produced some "positive legacies for women."

"Heavy investment in basic

social services meant that levels of educational achievement among women were high, standards of health care were good, women could expect employment, and comprehensive state child care allowed them to earn money and raise families," UNICEF (U.N. Children's Fund) said in a statement on the new report from its Innocenti Research Center in Florence, Italy.

These gains are now under threat, UNICEF warns.

"Women across the region are facing higher unemployment and lower real income than men, reductions in child care, increasing violence and deteriorating health."

The "Women in Transition" report goes on to suggest that, with national autonomy restored and cultural traditions revived, a re-emergence of pre-communist patriarchal values threatens to stifle the voices of women rather than liberate them.

"Fundamentally sexist values hold sway. By taking the lid off the past, the transition has exposed the dramatic failure of the communist system to promote a lasting culture of real sexual equality."

A survey in Moscow showed that more than one in three divorced women had been beaten by their husbands. In Azerbaijan 26 percent of women are the victims of domestic violence and one in four of those reported regular beatings.

99. 9. 23. 日

「家族と暴力…介入と治療」

来月、東京でシンポ

日本虐待行動学会が10月17日(日)午前10時から午後4時まで、東京都千代田区麹町3の2、アール・ホールで公開シンポジウム「家族と暴力…介入と治療」を開催。毎週火曜日の本紙に「オトコ生きかた」を執筆する家族機能研究所代表、斎藤幸さんのほか、ハーバード大学臨床心理学助教授でケンブリッジ病院暴

15日(金)午後1時から、同区麹町3の2、国立教育会館会議室で、専門家対象のワークショップもある。テーマは「暴力被害者への対応…コミュニケーションと精神療法」「夫の暴力被害からの回復…心的外傷の取り扱いと加害者対応をめぐって」「性的攻撃…犠牲者の保護と治療」。参加費5000円(当日6000円)。参加希望者は、今月末までに参加費を郵便振替(0019009177575/1FF、通信用に公開シンポジウムチケット希望と書く)で送る。

99.9.24 読売

性暴力被害者救済へNPO

法律、医療など各分野で、性暴力の被害者向けに支援活動を行ってきた専門家が新たなNPO（特定非営利活動法人）の設立を目指すことが二十三日、明らかになった。性暴力の被害者支援に処遇できる専門スタッフを養成し、ネットワークを作るのが狙い。活動の中心は教育研修プログラム（講座）と実施で、十一月には講座を開く。欧米に比べて遅れていた被害者支援だが、専門家による組織設立は、声を上げられない被害者への朗報となりそうだ。

新たに設立されるのは「女性の安全と健康のための支援教育センター」（事務局・千葉県市川市）。

長年、医療現場で被害者支援を続けてきた東京の産婦人科医佐々木幹子さん、「性暴力被害者弁護士ネットワーク」を組織する静岡の弁護士角田由紀子さんを代表に、精神科医、婦人相談員、セラピストら二十五人が参加してい

医師、弁護士ら25人参加 ■ 支援スタッフ講座を11月開講

る。小西聖子・武蔵野女子大教授（犯罪被害学）ら、この分野で実績を持つ女性ばかり。

性暴力については、だれでも被害者になる恐れがあるのに対し、被害後、相談機関すらわからず途方に迷う人が大半。ここ数年、民間の相談機関などは増えてきたが、利用者は限られ、警察に専門窓口ができているが統一マニュアルはない。医療や司法手続きの過程で、被害者が再び心の傷を負うことも多い。

こうした現状を改善しようと、来月十八日に都内でNPO設立の意向を表明。幅広い連携と、必要な人が情報入手できる仕組み作りを目指す。十一月末には都内で、被害者支援に携わる人向けの講座を行う。このほか、テキスト制作や性暴力被害者専門看護婦の養成も行うという。

事務局では会費を広く募っている。連絡はファクス（047・377・1000）で。

99.9.27.
毎日

セクハラ 損害賠償

高額判決は時代の流れ

セクシュアル・ハラスメント
(性的嫌がらせ) に対し、裁判所
が命じる慰謝料などの損害賠償金
が今年に入ってから高額化している。
岡内での最高額は、仙台地裁が、
男性ピアノ講師に慰謝料と弁護士
費用の計800万円の支払いを命
じた判決だ。名義被害者アライバ
ン・徳島などの人格権侵害に因す
る賠償額が低いと指摘されてきた
日本で、セクハラ代償が高額化
した背景を探る。【大石 雅康】



★判決は100万円
セクハラ訴訟で岡内初の
判決は1990年12月。静
岡県内のホテル従業員の女
性A、上司から食事に関わ
れ、強姦途中に性的関係を
迫られたうえ、無罪をりキ
スされたとして、慰謝料6
00万円と弁護士費用80万
円を求めて静岡地裁に訴え
部に起した訴訟だった。
岡内では賠償額の算定に

当たり、①女性に与えた痛
害の程度、②被害者の年齢、
③加害者の地位、④被害者の
地位、⑤被害者の地位、⑥
被害者の地位、⑦被害者の
地位、⑧被害者の地位、⑨
被害者の地位、⑩被害者の
地位、⑪被害者の地位、⑫
被害者の地位、⑬被害者の
地位、⑭被害者の地位、⑮
被害者の地位、⑯被害者の
地位、⑰被害者の地位、⑱
被害者の地位、⑲被害者の
地位、⑳被害者の地位、㉑
被害者の地位、㉒被害者の
地位、㉓被害者の地位、㉔
被害者の地位、㉕被害者の
地位、㉖被害者の地位、㉗
被害者の地位、㉘被害者の
地位、㉙被害者の地位、㉚
被害者の地位、㉛被害者の
地位、㉜被害者の地位、㉝
被害者の地位、㉞被害者の
地位、㉟被害者の地位、㊱
被害者の地位、㊲被害者の
地位、㊳被害者の地位、㊴
被害者の地位、㊵被害者の
地位、㊶被害者の地位、㊷
被害者の地位、㊸被害者の
地位、㊹被害者の地位、㊺
被害者の地位、㊻被害者の
地位、㊼被害者の地位、㊽
被害者の地位、㊾被害者の
地位、㊿被害者の地位、

★米では7億円賠償も
セクハラに加害者を罰す
る意味で「懲罰的損害賠償
制度」とも呼ばれる。このため
賠償は多額になる。法律事務
所の女性秘書が、上司の男
性弁護士から体に触れられ
るなどのセクハラを受けた
として訴えた裁判で、サン
フランシスコ上級裁判所は
94年6月、セクハラを放置
した法律事務所に約6億9
千万円を賠償する判決を出
した。この判決は、セクハラ
訴訟の賠償額が、人権侵害
訴訟に比べて高額の賠償を
命じるという傾向がある。

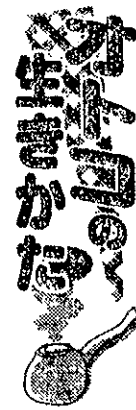
★3件続けて高額判決
昨年までの最高額は、地裁
が97年11月に出した慰謝
料330万円だったが、今
年5月、東北大学の元大卒
生が助教を訴え、仙台地
裁が1000万円の請求に
対して慰謝料750万円の
支払いを命じる判決を出し
て過去最高を更新した。岡
内では東北文化大の元
職員が教授を相手取った
訴訟で、岡内地裁が請求額
177万円に対し、700
万円の賠償を命じた。そし
て7月、仙台地裁は8年間
にわたるセクハラ行為を認
定し、これまでの最高額で
ある900万円の支払いを
命じた。

★請求額は被害者
多くのセクハラ被害者は
当りてきた角田由紀子弁護
士は「請求額には、被害者
の被害を賠償するだけでなく
ひびきを原告が受け止
めているかというメルクマ
ーがある」と指摘している。
私は、セクハラ訴訟の賠償
額の請求額は500万円を
増田祥井弁護士は、「現実的
な金額との意味から請求額
を4けた1000万円台に
抑え、慰謝料を示した。こ
のレベルを定額させ、さら
に賠償額を1000万円を
超える判決が出て
いい」と話す。

を告る限り始めなことが大
きい。性暴力の被害女性に
立し、叫び、激しく抵抗す
るものだという先入観があ
った裁判官の認識を変える
結果につながったと話す。
また、男性ピアノ講師の
訴訟で、被告の代理人を務めた
増田祥井弁護士は、「現実的
な金額との意味から請求額
を4けた1000万円台に
抑え、慰謝料を示した。こ
のレベルを定額させ、さら
に賠償額を1000万円を
超える判決が出て
いい」と話す。

を告る限り始めなことが大
きい。性暴力の被害女性に
立し、叫び、激しく抵抗す
るものだという先入観があ
った裁判官の認識を変える
結果につながったと話す。
また、男性ピアノ講師の
訴訟で、被告の代理人を務めた
増田祥井弁護士は、「現実的
な金額との意味から請求額
を4けた1000万円台に
抑え、慰謝料を示した。こ
のレベルを定額させ、さら
に賠償額を1000万円を
超える判決が出て
いい」と話す。

99.9.28. 日



斎藤 学

名を持たないものの実態 生き延びた人々は、自らを
は見えない。折檻や獄が親 サバイバー(生き残り)と呼
の愛の証であった時代 んでいる。より正確には家
に「児童虐待は見えない」 族内トラウマ(心的外傷)の
だ。妻という「じやんや馬」 サバイバーであるが、その
の調教が男の仕事であった 多くはうつ病などの心身の
時代には「バタード・ウーマ 不調に悩んでいる。彼らは
ン(被虐待女性)などという 自分の人生が家族内暴力に
言葉は作られようもなかつ よって歪められたことに、
た。これらの言葉が用いら ある時点で気づき、親や夫
れたしたのは、世界的にみ を恨んでいるのだが、その
てもごく最近のことであ 一方で、得られなかった「親
る。児童虐待の防止を目的 や配偶者の愛をどこかで
とした法律は1974年 取り返そうと願うになっ
に、彼らへの暴力を防止 てい。そういつわで、彼
する法律は85年にいずれ らは依存症的な、依存し
もアメリカで最初に作られ ようとする他者への不信感
た。 ち強い。つまり治療者にと
虐待にさらされる時代を つては難しい患者である。

児童や妻虐待

世界でも、最近の言葉



絵・浜田洋子

こうした人々は「甘った
れ」と呼ばれ、治療者から
も見捨てられることが多い
のだが、彼らの叫びを聞き
取ろうとする治療者もい
る。そうした治療者に、サ
バイバーは虐待された子ど
も時代を語る。この語り
内容は次第に変化して、苛
酷な子ども時代を生き抜い
た者の誇りへと変わる。そ
の時には、もはや親たちを
恨むこともない。

こうした治療の方法論も
またアメリカが世界に先駆
した。残念ながら今のとこ
ろ、我々日本の治療者はア
メリカの先進たちの試行錯
誤に学ばなければならな
い「心的外傷と回復」(み
すず書房)の筆者、シユデ
イス・ハーマンは先進の一
人で、先年来日した。もう
一度日本に来て、彼女らの
治療法を具体的に話してほ
しいと頼んだら、ハーバ
ード大学の暴力被害者研究チ
ームの一員で、治療プログ
ラムの責任者を務めるメア
リー・ハーウィーを紹介し
てくれた。彼女もまたすぐ
れた研究者、臨床家である。
10月17日(日曜日)には一
般市民向けの講演会(東京
・虎ノ門ホール)を予定し
ているので、関心のある方
々の参加をお待ちしてい
る。(問い合わせ先: 家族
機能研究所 ☎03・5476
・0041、<http://www.aifjg.jp/> (精神科医))

体験語り合い心解放

加害者扱いには反発も

パートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス)を、主な加害者である男性自身に考えてもらい、解決の糸口を模る自助グループが生まれ始めた。「男らしさ」の呪縛からの解放を目指すメンソブ運動のメンバーや心療療法家の専門家が降りかかっている。自分を加害者と認めることなどへの抵抗感は強く、課題は少なくない。

「三回ほど、落つい手が出た。多くの男性は軽々たいたくらいでは、暴力ではないと思つてゐるのではないか」。京都市内で今月開かれた「對のフェスティバル」の分科会「ドメスティック・バ

を話し合う中で、「男の暴力」

した。メンズリブは、89年の

日本女性学研究会の討論を機

に、91年にメンズリブ研究会

（大阪、伊藤公雄・大阪大教

授）が発足、東京や九州に

も広がった。買物や仕事など

を話し合う中で、「男の暴力」

罵倒。幸せかどうかは自分で

感じるもの」と言われ、目か

らうろこが落ちる思いをし

た。「男らしさを顕解してい

たと気が付く素になり、暴力

をふるわなくなったという。

自分が加害者だったことを

[illegible]

阪、中村彰博氏)の「男のため
の非暴力研究会」は昨年から、米国の脱脱内暴力の加害者プログラムを参考にワーク
ショップを開いている。(森
を)ほめる、怒るなど感情の多
多様性を学習しながら、徐々
に心を開いていくプログラム
だ。メンスリプ(東京(豊田正
賢代表)、メンスリプ(神奈川
(井上昌代表)は年内にも、
体験者の話し合いによる暴力
克服プログラムを始める。井
上さんは「男性は加害者とな
らない努力が必要」と話す。
また、カウンセラーの立場
からの取り組みもある。メン
タルサービスセンター(東京)
を主宰する塩柳和之さん(桐
朋学園大講師)もその一人。
塩柳さんは昨年、当事者たち
が体験を話し合い、解決策を
探る自助グループを立ち上げ
た。参加した大阪市在住のB
さんの場合、専業主婦の妻を

●三情報●

◇シンボリズム「ネット
ワーク時代の消費者」 10
月2日午後5時から、東京
・J・R四ツ谷駅前の主婦会
館「ラウエフ」井陣士の木
村賢介さんをおコティネー
ターに、作家の山根一真さ
ん、東京工科大教授の清
原肇子さんが講演を交わ
す。定員100人。参加費
500円。(03・3786655・2
121、ファクス03・378
2・78664)へ。

◇交流会「なぜ私は日本
に来たのか」 10月9日
午後1時から、東京・江東区
の姉妹市下郷。日本で働い
ていた時に日本人男性との
間に生まれた子供を母国に
帰って育てているフィリピン
人女性だ、養育の現状など
を語る。参加無料。同5時
半から、彼女たちと子供た
ちによるミニシカル公演
(当日券2千円)。問い合わせ
はせは主幹団体の「女性の自
立のためのネットワーク」
の河村あづま。(03・3600
3000・0006)か、03・3600
5・1751)へ。

毀る理由は、「家庭を潰さう」と一方的に加害者扱いされる自分のアレシヤーズを、妻はわかってくれない」だった。口論になると、腹の中が真っ白になり、幼い子どもの前でも抑えられなかった。妻のうつ鬱を折った時、「このままなら殺してしまふ」と、離婚した。周囲に「暴力はダメ」と忠告する必要がある」と話す。

東京・大阪で男性対象に講座

は、同性交友を対象とした「メンタルサービステントター」を開催し、女性に対する差別意識の解消を図る。また、男性暴力克服のための「男性リトル・ブーケ入門」を10月30年後半より実施する予定で、午後7時から、東京・飯田橋のセントラルプラザ10階で開催される。

◇
日本YWCAは10月23日、11月6・20日「男性対象の『女子』へ。」

開く。DV被害を受けた女性に支援する男性の育成が目的。参加費は3回分6千円。問い合わせは、大阪YWCA（06-6960-2885）まで。

る。この時、自分の客観視して結
合したり、DVのロールプ
レイゲームを行ったりして、
解決方法を探る。受講者うち



「私だって暴力はやめたかったが…」と1年間にわたるDVの苦悩を語る男性(手前、京都市の「男のフェスティバル」で)

99.10.4. J. T.

QUESTION AT U.N. IS CONTENTIOUS

Human rights, sovereignty debate ends

UNITED NATIONS (AP) Two weeks of debate at the U.N. General Assembly ended Saturday with one question emerging as the most contentious: Which is more important, human rights or sovereignty?

More specifically, leaders from all over the world discussed whether regional or international organizations like the U.N. should have the right to send troops or unleash bombs against a nation to end genocide, ethnic cleansing or other ills, or is such intervention an unacceptable violation of sovereignty?

By the time the debate ended Saturday afternoon, many of the 144 speakers — includ-

ing 36 heads of state and 19 prime ministers — had weighed in, and deep dividing lines had been drawn.

The debate continued during the entire opening talkathon, with U.N. Secretary General Kofi Annan raising the issue of "humanitarian intervention" in his opening speech to the annual assembly session Sept. 20.

Against a backdrop of NATO airstrikes to halt violence against ethnic Albanians in Kosovo Province, Yugoslavia, and the deployment of a multinational peacekeeping force in East Timor, two schools of thought emerged.

While the United States, its European allies and Annan

argued that human rights should take precedence over sovereignty, a host of countries, including China, India, Malaysia, Iraq, North Korea and Libya, insisted that sovereignty remains paramount and that the matter of human rights is an internal affair.

By the end, most delegates agreed the issue needs further in-depth discussion, said Namibia's foreign minister, Theo-Ben Gurirab, the assembly president. U.N. spokesman Fred Eckhard said Annan felt the debate was "healthy and good" and he was "pleasantly surprised at the amount of reaction."

With ethnic minorities and innocent civilians increasing-

ly the targets of warring parties, Annan said the U.N., and its Security Council, in particular, must be willing to intervene.

The Netherlands' foreign minister, Jozias Van Aartsen, noted that since the U.N. was created in 1945, respect for human rights has become "more and more mandatory, and respect for sovereignty less and less stringent."

But large Asian nations like India and China, with domestic insurgencies, fear any legitimization of international interference. And smaller countries worry that military intervention on humanitarian grounds could threaten the survival of their govern-

ments.

Indian Foreign Minister Jaswant Singh said sovereignty needs to be strengthened, "not weakened." And Chinese Foreign Minister Tang Jiaxuan insisted human rights are "an internal affair."

Iraqi and Libyan officials dismissed humanitarian-based intervention as a new form of colonialism.

"This is, in fact, the most untenable pretext because those who perpetrate it would not, if they truly cared for humanity, produce and stockpile all kinds of mass-destruction weapons or commit aggression against others," said Libyan U.N. Ambassador Abuzed Omar Dorda.

99.10.4 J.T.

Human rights bungled again

By JIM MANN

Los Angeles Times

WASHINGTON—Some times you have to wonder if the Clinton administration is out to give the cause of international human rights a bad name.

Twice this year, the administration as set out — rightly and commendably — to protect an essentially helpless group of people overseas from being persecuted and uprooted. The first time, it was the Albanians of Kosovo; over the past few weeks, it has been the people of East Timor.

But both efforts have been disastrously flawed by the administration's tendency to misread the foreign leaders with whom it was doing business. It almost seems as though President Bill Clinton and his national security adviser, Samuel R. Berger, assume the rest of the world is governed by reasonable, genial, American-style politicians and trade lawyers.

Last spring, the administration believed wrongly that mere threats of force — or, at worst, a couple of days of NATO air power — would force Yugoslav President Slobodan Milosevic to back down.

Instead, Milosevic systematically pushed the Albanians out of Kosovo and fought a military campaign for more than two months before yielding.

In East Timor, the Clinton administration has misjudged the Indonesian Army. For many months now, it has appealed to the good faith and wisdom of Indonesian military leaders to permit a referendum on independence in East Timor and then to abide by the results.

When the Timorese voted for independence, armed militias began terrorizing the population. The Clinton administration at first attributed the problem to rogue elements within the armed forces, not to the military leadership itself. Only belatedly did it realize that the problems

went right to the top and that the military's resistance to East Timor's independence was far more pervasive than it had earlier thought.

The upshot: The Timorese, who so recently turned out to vote in an election, have been running or hiding for their lives. By Indonesian estimates, more than 200,000 of the 800,000 people of East Timor have fled across the border into Indonesian West Timor. Another 200,000 or so are refugees inside East Timor.

This disaster may not yet be over and may become even more serious.

Some human-rights officials and Western diplomats have been warning for weeks that the Indonesian military was preparing to carry out what was called "Plan B" — a program to prevent the separation of East Timor even if the Timorese voted for independence.

The recent campaign by the militias to drive out the population may be only the first part of Plan B. The second part would be a protracted war of attrition by the army-backed militias from bases in West Timor against the United Nations forces in East Timor.

Before departing from East Timor last week, Maj. Gen. Kiki Syahnakri, the commander of Indonesian forces in the territory, warned that the U.N. forces should not venture across the borders into West Timor against the militias.

If the militias can inflict significant casualties on the U.N. forces, Australia would probably have to increase its troop presence in East Timor. If that didn't work, Australia could well ask the United States for combat troops, in addition to the logistical and intelligence support the U.S. is now providing.

The Clinton administration has been slow to foresee what might happen. Critics say the Pentagon should have been ordered early on to prepare various options for the use of force.

"These problems have been on the horizon for months," says Richard L. Armitage, a former senior Pentagon official. "It would be a tragedy to find out after all this is over that CINCPAC (the commander of U.S. forces in the Pacific) hadn't privately been developing various force packages for contingencies."

The underlying problem is the same one that arose within the administration during Kosovo this year and with Bosnia several years ago: The Pentagon is extremely reluctant to get involved in missions to help keep the peace or to prevent large-scale human-rights abuses.

The U.S. military clings to the "Weinberger doctrine." In 1984, then-Defense Secretary Caspar Weinberger proposed that U.S. troops should not be committed overseas unless vital U.S. interests were at stake and the objectives were clearly defined and limited — and then only if overwhelming force was used to achieve the objective.

These ideas are often hard to reconcile with what is now called the "Clinton doctrine" — the notion the U.S. and its allies will intervene where necessary to prevent genocide and ethnic cleansing.

In short, the turmoil in East Timor is to some extent the outgrowth of tensions and slipups within the Clinton administration's foreign-policy apparatus.

The president and his top advisers underestimate the involvement and tenacity of foreign leaders in carrying out campaigns of ethnic cleansing. Then, when taken by surprise, the administration has trouble persuading the Pentagon to use force on behalf of the "Clinton doctrine."

The administration's ideals are admirable, but it can't realize them when the execution of its policies is so flawed.

Jim Mann covers foreign policy for the Los Angeles Times.

99.10.5. 東京

ノック知事「答弁は無用、公務に専念」

わいせつ訴訟 敗訴確実に

大阪府知事選の選挙運動中、「わいせつ行為で精神的苦痛を受けた」として、運動員だった女子大生三ッが、横山ノック知事（写真）に慰謝料など千一百万円の損害賠償を求めた訴訟の第一回口頭弁論が四日、大阪地裁（林圭介裁判長）で開かれ、知事側は請求に対し「答弁しない」と述べた。



民事訴訟では、反論しない場合は相手方の訴えを認めたとみなされ、横山知事の敗訴は確実となった。横山知事は同日、わいせつ行為を「でっち上げ」と否定しながら「不戦敗になるが、公務に専念し民事訴訟には対応しない」との声明を発表。女子大生側は「裁判を終わらせ世論の沈静化を狙ったのだろうが、司法を愚弄（ぐろう）（へん）する

女子大生側『世論そらし、司法を愚弄』

林裁判長はこの日法廷で、横山知事側の求め通り、即日結審して判決期日まで指定したが、女子大生の弁護団が反発して紛糾。再三の休廷後、同裁判長は弁護団の「慰謝料増額を検討するので弁論期日が必要」との主張を認め、十一月一日に次回弁論を開くことを決めた。弁護団は女子大生と知事の本人尋問も求める方針。訴えによると、女子大生は府知事選投票日前の四月八日夜、選挙運動用のワゴン車内で、横山知事から「毛布を掛けてやるわ」と言われ、下腹部などを触られたという。この問題では四月、女子大生が大阪地裁に強制わいせつ容疑で知事を刑事告訴し、知事も「事実無根」と虚偽告訴容疑で逆に告訴。横山知事は声明で「身の潔白の証明は刑事手続きで行えば十分」と弁護士に助言された」としている。

99.10.8
東京

タイ女性売買に女ボス

運び屋ら 日本へ送り込み指示
逮捕で判明

タイの女性売買組織「ゲ
ンカーブジン」(タイ語で
「雇人の婦人売買組織」の
意)の素顔解明を進めてい
る警視庁保安課と野方、杉
比呂志らに、新たに有罪の
逮捕、フローカーらは組織の
「ビッグ・ボス」と呼ばれ

る三代後半の女性から売
店で売婦として働かせる
ことを知りながら、同区大
久保の路上で別のフローカ
ーに引き渡した疑い。
フローカーの女は昨年五
月と同八月に、同様に借金
を返済された二十歳と
二十二歳のタイ人女性二人
を、同店に紹介した疑い。
女は報酬として同組織から
約二百三十万円を受け取っ
ていたとみられる。
運び屋の女は昨年夏、タ
イ国内で同組織の人間か
ら、ボスの連絡先を教えら
れ、今年一月から運び屋を
始めた。成功すると、報酬
として一人につき十万円を
受け取っていたという。
女性や子どもの人身売買
は、トラフィッキングと呼
ばれ国際問題化している。

99.10.8. 朝日

女性・子どもが安心して暮らせる国を



アフガンのNGO 難民の子らに学校 日本には支援要請

一九八九年の旧ソ連軍撤退から十年たった今も、アフガニスタンでは内戦が続く。約三百万人が混乱を避けるためにパキスタンなどに逃れた。そのアフガンの子どもと女性の困難な状況を救済しようと活動している非政府組織(NGO)「アフガニスタン女性協議会」(AWO)の代表、フタタナ・カイラニさん(四七)がア

ムネステイ日本支部などの招きで来日した。各地で講演するほか、日本政府などに和平実現と女性の地位向上への支援を要請する。

旧ソ連軍との戦闘、九二年の社会主義政権崩壊後の内戦で、一万人以上の男性が命を落とし、女性と子どもが取り残された。しかし、九六年に首都カブールを制圧し、国土の大部分を

支配するイスラム原理主義勢力タリバーンは、女性の教育や就労を一切認めていない。女性が一人で外出することも許されない。

そのため、生活の糧を得られず餓死したり、やむなく流産や物乞いをしたりするしかないという。子どももストリートチルドレンになるか、武装集団の兵士として訓練を受け「武装集団の論議とカラシニコフ銃の使用」が知らない大人に「なつてしまふ」と話す。

カブールに生まれ、高校を卒業した。旧ソ連軍侵襲後の七九年、パキスタンのペシャワールに夫、親類と共に逃れた。難民キャンプで栄養失調の子や字の読めない女性と接し、「社会を変えるためには、女性が正しくイスラム教を解釈し、

権利を自覚できるための教育が必要だ」と思い、八六年にペシャワールでAWOを設立した。

スタッフは八十二人。難民の子どものための学校では千七百八人が学び、診療所にはワクチンを受け取る女性たちが毎月三千人以上訪れる。月刊紙や講演を通じて女性の啓蒙もする。

タリバーンの政策と真っ向から対立する。「彼らの政

策はイスラム教ではない。彼らはイスラム教を人々を支配、抑圧する口実にしてる」と批判。タリバーンの暗殺リストに女性で唯一名前を挙げられている。

戦争のない、人々が自由に暮らせる祖国を実現することが自分の世代の責任だと語る。「神が人間に与えてくださった権利を、すべての子どもと女性が享受できる社会にしたいのです」

(外報部・杉井 昭仁)

99. 10. 8.
読売

児童買春処罰法 来月1日に施行

政府は八日午前の閣議
で、十八歳未満の子供を相

手にした買春や児童ポル
ノの頒布などを禁止する児
童買春・児童ポルノ処罰法
について、十一月一日から
施行することを正式決定し

た。同法は、社会問題化し
ている援助交際のほか、
海外での日本人観光客の児
童買春やインターネットで

本製児童ポルノを規制する
初の法律。
超党派の議員立法で提出
され、先の通常国会で成立
した。

99.10.10.

東京

男女共同参画社会基本法

二十一世紀の社会と家庭のあり方を示した男女共同参画社会基本法が先の通常国会で成立しました。今、伝統的な家族像が崩壊、家族のきずなもバラバラになり、社会も行き詰まって、どう立て直したらよいのか、が課題となっています。父親がまず、時に手料理を家族にふるまうことから始めるのも、一法でしょう。(編集委員・黒住隆興)

この基本法が打ち出した理念には「性による役割分担を反映した制度や慣行を中立的なものに」「どのような活動も家庭生活との両立をめざす」――など

がうたわれています。

今、子供の食生活は朝食抜きや孤食が増え、キレる子供が多く、学級崩壊が進んでいます。

また、社会の行き詰まりは、伝統的な家族像の崩壊から家族のきずながバラバラになった結果生じたものが多くなっています。この状況に基本法はどんな効力を持つのでしょうか。

これには男性側の育児、家事、介護への参加が求められます。しかし、わが国には「男は仕事、女は家庭」の意識が根深く、男社会のシステムが徹底していて、その表現を阻んでいます。

とくに、男性の炊事への参加は「男子厨房(ちゅうぼう)」に入らず」との伝統があり、難しくしてきました。明治維新以来、米炊に追いつき、追い越せ

『男の役割』見直し迫る

99.10.10

のモットーのもと、戦前は軍事で、戦後は経済で大国となり得たのも「男は仕事、女は家庭」の性的役割でやってきた結果でもありました。一種の効率主義で、男性の仕事優先、地域や家庭の軽視となつて、「厨房に入らず」を一層、助長した面がありました。

今、この効率主義が環境ホルモンによる不妊患者の急増とも重なり、少子高齢社会の到来を招きつつあります。経済効率最優先のツケが出たとも、歯車が逆回転し始めたともいえます。男女共同参画社会のシステムを構築することで、ストップをかけるようとするのが、この基本法といえます。

これを実践する第一歩として男性の炊事参加を取り上げるのは、食事を作ってみると、食事が生命の源で、一家のきずなを深める「調味料」となり、潤いのある家庭づくりのかなめであることが分かるからです。

鎌倉時代、永平寺を開いた道元禪師も中国に渡って、僧堂では炊事を担当する僧りの責任者を典座(てんぞ)といつて位が高いことを知らされ、『典座経典』を著し、炊事の大切さを教えています。

外国人入店拒否人種差別

ブラジル女性勝訴 撤廃条約、初の適用

静岡地裁支部判決

外国人であることを理由に、約に違反するなどとして、
 宝石店から追い出そうと、静岡県浜松市在住のブラジル女性勝訴、ブラジル人女性記者、フナ・ボル
 ツさん（五十）が同市内の宝石店経営者に百五十万円の損害賠償を求めた訴訟の判決は、宝石店経営者側に計百五十万円の支払いを命じた。

宗裁判官は判決理由の中で、「一条約は憲法優位の下の、わが国でも国内法としての効力を有する」と判断、人種差別撤廃条約を間接的に適用し、「今回のケースでは個人に対する不法行為があった」と述べた。
 【関連記事10面に】原告側代理人によると、同条約を根拠に個人間の差別行為を認定したのは初めてという。
 外国人の定住化が進む中、差別をめぐる訴訟が今後増え、同条約を批准した政府も、外国人差別に対するきめ細かな防止策を迫られると見られる。

判決によると、ボルツさんは一九九八年六月十六日、宝石店でネックレスなどを見ていて、経営者から出店を要ねられ「ブラジルから」と返答。経営者は「立ち入り禁止だ」などと返って「外国人の入店は固くお断りします」などと書いた張り紙を掲げた。

松中央製作成のビラを突きつけるなどして店から追い出そうとしたため、ボルツさんはその場で抗議した。

宗裁判官は「ブラジル人と知っただけで追い出しを図ったのは外国人を蔑視なものとして邪険に扱うものだ」とした。店側は「防犯のため入店制限はやむを得ない」と反論していた。

人種差別撤廃条約 欧州を中心にネオ・ナチズムが活発化したことなどを背景に、国連総会で一九六五年採択され、六九年発効した。締約国はあらゆる形態の人種差別を撤廃する政策をとり、すべての者に差別の結果として被った損害に對して賠償などを裁判所に求める権利を確保すると定めている。日本は国連の採択から三十年後の九五年十二月に批准し、九六年一月に発効した。

99.10.12.
 東京

たとえば、各国のメディアは空襲を「人道的介入」と呼んできた。また、二一世紀の国際秩序を支配した「新帝国」を本誌に紹介してきた。しかし、こうした武力干渉には強い懸念があり、それは「人道的干渉 (humanitarian intervention)」という確立した用語があった。なぜこの言葉が使われなかったのか。

二〇世紀初頭、現在のNATOの中核をなす諸國は帝國主義列強として世界に君臨していた。彼らは、トルコやルーマニアなど、彼らが「非文明國」と考ふる國で民族の少數者への迫害があったとしてはいは軍事的に介入し、これを人道的干渉と呼んだ。

トルコなどは近衛があつたことと離かたし、干渉する側の一部に人道的関心があつたとしても事實である。しかし、植民地の獨立運動を假借なく弾圧した欧州列強に對する「人道的干渉」といふ事は、誰かちもあがらなかつた。干渉するが爲め、干渉

らむ歴史性

かけるもの


NATO空爆が問いかけるもの

「不作
避け

「不作為による加担」
避けた欧州社民政権



大沼 保昭



大沼 保昭

米軍の空爆によるウレタム
民の殺戮——に加担しているこ
とではないか。

むろん、これは単純化された
議論である。しかし、私にとっ
てウレタム反戦とはそうした
考え方を教えてくれたものであ

すべきでないという理念が單なる口實でなく、欧米、特に欧州の社民政權の現實の行動を規定する要因となつてゐる。

しかし、この点でも日本のこれまでとの議論の前提には大きなずれがあつたように思ふ。特に私が違和感を感じるのは、「欧州の社民政權の担ひ手はヴェトナム反戦世代なのに」なぜ武力干渉に積極的なのか、という問いである。この問いは繰り返して問われ、現在も多くの人の心懸にあるようである。

私自身「ヴェトナム反戦」世

むろん、政治家がこうした素
え方をとることの危険性という
問題はあつたろう。けれども、
「ヴェトナム反戦の社民党」に
という問いがごく素直に問わ
れ、その問いが簡單に共有され
てしまふ現在の日本の知と感情
のあり方自体、問われてしかる
べきではないのか。私にはそう
いう気がしてならない。

（お初めまゝ、すあき『東京大
学教養・国際法
水谷の問題を扱つた大沼氏の
著作に「人権国家 文明」（筑
摩書房）がある。

この人

女性施策の進ちょく
状況を独自にまとめた

今、各國のNGO(非政府機關)が政府報告を批判する独自報告書作りを取り組んでいる。日本でも四月に「日本NGOレポートをつくろう会」ができて、その副代表に就任。全国の女性団体や個人らから寄せられた三万件の意見を集約し、独自の報



（はしもと・ひろこ）
山口県出身。67年に短大を卒業し、文部省に国立学校図書専門職員として採用される。91-96年に国連アジア太平洋経済社会委員会事務局（タイ）に出向。現在、十文字学園女子大学助教授。53歳。

カリフォルニア大学に留学。そこで女性学に出会った。その後、公私共にのめり込んでしまった。

報告書は「女性に対する暴力」「女性と経済」など十二項目について、現状と課題をあげた。「政府の回答は例えば女性の政治参画の部分では女性議員を増やす手立てが明示されないなど不満が残る」と強調する。

国際的なNGO集会にも積極的に参加する。今春には米国で開かれた国際会議に大学生の娘を同伴した。「でも週末もない私の暮つしぶりに娘はちょっとの給やわかなんです」「一生懸命だ。



横田 洋三
東京大学教授

国連では、二〇〇〇年秋のミレニアム（千年紀）総会に向けて、準備が本格化している。アナン事務総長の下に、ミレニアム総会担当事務次長が任命され、来年中に発表される予定の事務総長報告書の起草が始まっている。

この提書書は、八日午後、町村外務政務次官に手渡された。また、九日午前、公明党の公明会において、国連事務局代表にも提出される。これまで出された国連改革案の多くが、事務局機構の効率化、スリム

化を中心としていたのに、対して、この提書は、二十一世紀において、国連が果たすべき役割を中心として、軸を軸としている点に特徴がある。

提書書は、六つの部分から成る。第一章の総論では、紛争形態の多様化、経済のグローバル化、科学技術の発達、交通通信技術の進歩などにより、二十一世紀の世界は、貧困、環境破壊、人口爆発、難民流出、テロ、国際組織犯罪、感染症などの問題に、地球規模で取り組む必要がある。だが、五十四年前にできた国連は、機構・機能の両面で、適切ではなくなっているとする。そして、国連は、政治、経済、社会、技術などのあらゆる分野で前面に出た活動をするのではなく、むしろ、国連が持つ普遍性、正統性、包括性を生かして、課題選定、政策立案、

に対して、国連が積極的役割を果たすべきである、と提言する。特に、集団殺害、民族浄化などの大規模な人権侵害や人道に対する犯罪に対しては、国連が直ちに行動できるような法的、制度的条件を整える必要があると述べる。

また、平和維持活動を含む予防外交の強化、戦時から平時への移行期における復興・開発のための援助の強化、安全保障理事会の理事国数の

21世紀の国連、調整重視で

その報告書に、アジア太平洋地域の意見を反映するための公明会が、九、十日の二日間、東京・渋谷の国連大学で開催される。日本をはじめインド、インドネシア、オーストラリア、韓国、タイ、中国、パキスタンなどの有識者が、ニューヨークから来る国連本部の幹部職員の前で、国連の将来について意見を述べ、討論を行う。

昨年十月に設立された日本国連連合会では、今年初めにミレニアム総会関連プロジェクトを発足させ、二回にわたるワークショップと数回に及ぶ研究会における討議をもとに、二十一世紀の世界における国連の役割」と題する提書書を手とめた。

論点

行動基準設定などの活動に力を入れ、すでに存在し活動している国家自治体、国際機構、民間活動団体（NGO）、企業などの活動に指針を与え、それらの活動を調整する役割を強化すべきであるとする。

第二章は、安全保障と軍縮・軍備管理の分野を扱う。この分野では、国連は依然として中心的役割を果たす必要がある、その場合、伝統的な国家間戦争のみならず、ボスニア、コソボ、ソマリア、ルワンダなど、冷戦後の世界で多発する内戦型紛争

十五から二十四への拡大と常任理事国数の五から十への拡大、常任理事国の拒否権の制限、生物・化学兵器の禁止と核兵器全廃への努力などを提言する。拡大する常任理事国メンバーについては、国名を明記していないが、当然、日本も含まれる。

第三章は、経済・社会分野の国連活動を扱う。この分野は開発、人権、環境、保健、教育、犯罪、通商、金融、貿易、交通、通信など広範囲で、そのすべてに国連が自ら取り組むことは効率的でなく、むしろそれぞれの分野で活動する国連の関係機関や専門機関の活動を効果的に利用・調整することが望ましいとする。そのために経済社会理事会のもとに、経済開発環境委員会と社会人権人権委員会を常設的に設置するよう提言する。

第四章は、国連の活動を支援する市民社会やNGO、学会などの関係強化を強調。特に総会の補助機関としての「世界市民議会の設置と経済社会理事会の下に「NGOフォーラム」の設置を提言する。

第五章は、国連の財政基盤強化のため、分担金納納国に対する罰金と完納国に対する報奨金制度の導入、国連経費の国別分担率の公平性の観点からの見直し、国連の独自の財源確保の検討などを提言する。

提書書は、最後に国連の人的基盤の強化と日本など職員数の少ない国からの採用の拡大、専門分野の多様化、職員の年齢構成の見直し、男女職員の均衡化などを提言する。

日本の学会の提言が国連の将来にどう生かされるか、注目したい。

99.9.7.
読売(夕)
(1面)

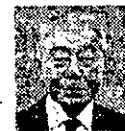


原文兵衛議長が死去

元警視總監で、前参院議長の原文兵衛(はら・ぶんべい)氏が七日午前九時四十分、肺炎のため、長野宅は東京都豊島区目黒の三十三の二〇の青山葬儀所で、原家と自民党との合同葬として行われる予定。白十六分、肺炎のため、長野宅は東京都豊島区目黒の三十三の二〇の青山葬儀所で、原家と自民党との合同葬として行われる予定。白十六分、肺炎のため、長野宅は東京都豊島区目黒の三十三の二〇の青山葬儀所で、原家と自民党との合同葬として行われる予定。

五の二。
原氏は戦前、旧内務省に入り、長野、神奈川両県警本部長などを経て、六一年から四年間、警視總監を務め、東京オリンピックの警備の陣頭指揮をとった。七一年に自民党から参院東京地方区に出馬し初当選。連任四期務め、環境庁長官などを歴任。九一年八月から三年間、参院議長を務めた。この間、自民、社会(当時)両党による五五体制の崩壊と自民党の政権からの転落、政治改革関連法案をめぐる与野党攻防など大きな変革期での参院運営にあたった。九五年七月の引退後は、元従軍慰安婦に対する償い事業を行う「女性のためのアジア平和国民基金」の初代理事を務め、九六年秋、勲一等旭日桐花大綬章を受けた。

99.9.7.
東京(夕)
(1面)



前参院議長の原文兵衛氏死去

参院議長を務めた元自民党参院議員の原文兵衛(はら・ぶんべい)氏が七日午前九時四十六分、肺炎のため長野東京目黒の三十三の二〇の青山葬儀所で死去した。

八十六歳。東京都出身。白宅は東京都豊島区目黒二五五二。葬儀・告別式は未定。
東大法学部卒。警視總監を経て一九七一年の参院選東京地方区で初当選以来、連任四回当選。鈴木内閣の環境庁長官、参院自民党議員会長などを歴任した。九二年八月から三年間、参院議長を務めた。九五年七月に政界を引退後も元従軍慰安婦への補償を進める「女性のためのアジア平和国民基金」理事長として戦後処理問題に当たった。
先月二十三日午前、長野県軽井沢町の別荘で倒れ、目黒の三十三の二〇の青山葬儀所に緊急入院していた。

元参院議長で警視總監などを務めた原文兵衛(はら・ぶんべい)氏が七日午前九時四十六分、肺炎のため長野東京目黒の三十三の二〇の青山葬儀所で、原家と自民党との合同葬として行われる予定。白十六分、肺炎のため、長野宅は東京都豊島区目黒の三十三の二〇の青山葬儀所で、原家と自民党との合同葬として行われる予定。



原文兵衛氏死去

一九三六年、内務省に入り、六一年、警視總監に就任した。七一年、東京選挙区から参院議員に初当選し、連任四回当選。環境庁長官などを歴任。九二年八月から三年間、参院議長を務めた。九五年七月に政界を引退後も元従軍慰安婦への補償を進める「女性のためのアジア平和国民基金」理事長を務めた。九六年、勲一等旭日桐花大綬章を受けた。
九五年一月、日本経済新聞に「私の履歴書」を執筆した。

99.9.7.
日経(夕)
(19面)

1999. 9. 7. 毎日 (7) (1面)

1999. 9. 7.

朝日 (7) (1面)

元参院議長

原文兵衛氏死去



元参院議長の原文兵衛（はら・ぶんべ）氏（元環境庁長官、元警視總監）が、七日午前九時四十六分、肺炎のため長野県南佐

久野田町の病院で死去した。八十六歳だった。政界を引退後、元従軍慰安婦への償い事業をする「女性のためのアジア平和国民基金」の理事長を務めていた。葬儀・告別式は十一日正午から東京都港区南青山二の三三の二〇の青山葬儀所で。喪主は妻光子（みつ）さん。自宅は東京都豊島区白鳥二の五の二。

原前参院議長が死去 86歳



前参院議長で警視總監も務めた原文兵衛（はら・ぶんべ）氏が、七日午前九時四十六分、肺炎のため長野県南佐田町の病院で死去した。86歳だった。葬儀・告別式は十一日正午、東京都港区南青山二の三三の二〇の青山葬儀所で。喪主は妻光子（みつ）さん。

れ、治療を受けていた。東大法学部卒業後、旧内務省に入り、1964年の東京オリンピックの時に警視總監を務めた。初代公害防止事業団理事長などを経て、71年より自民党参院議員（東京選挙区、4期）。鈴木内閣で環境庁長官。その後、参院予算委員長、自民党参院議員総会長、参院自民党議員会長などを歴任。92年8月第20代参院議長に就任した。高齢を理由に95年7月政界を引退。同月、元従軍慰安婦に償い事業を行っていた「女性のためのアジア平和国民基金」の理事長に就いた。参院改革や環境保護、日本の戦後処理問題に尽力、「ハラファン」の愛称で知られた。

期務め、九五年に引退した。八一年、鈴木善幸内閣で環境庁長官。鳥取、島根両県にまたがる中海・宍道

湖の淡水化に反対したほか、ナショナルトラスト運動の後押しをした。

議長に就任。九四年の細川内閣当時、小選挙区比例代表並立制を導入する政治改革関連法が参院で否決さ

れ、両院協議会の末に成立した際の議長だった。親分肌で温厚な人柄から「ハラブンさん」と慕われた。

1999. 9. 7

サンデー (7) (1面)

前参院議長の原文兵衛氏死去



前参院議長、元環境庁長官、元警視總監の原文兵衛（はら・ぶんべ）氏が、七日午前九時四十六分、肺炎のため、入院先の長野県南佐田町の佐久総合病院で死去した。八十六歳だった。

東京出身。自宅は東京都豊島区白鳥二の五の二。葬儀・告別式は十一日に原家と自民党の合同葬を行うことと調整中。喪主は妻、光子（みつ）さん。

原氏は昭和十一年に旧内務省入り。三十六年から四十年間、警視總監を務め、四十六年に自民党から参院東京地方区で初当選し、連続四期当選。鈴木内閣で環境庁長官。参院自民党議員会長などを経て、平成四年八月から参院議長を務めた。その後、「女性のためのアジア平和国民基金」理事長として、戦後処理問題にあたってきた。

原氏は八月二十三日、前妻の長野県南佐田町の別荘で倒れ、佐久総合病院に入院していた。

インターネット 朝日新聞

news update / 最新ニュース

asahi.com

おくやみ



おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

おくやみ

元参院議長の原文兵衛氏死去

元参院議長の原文兵衛(はら・ぶんべえ＝元環境庁長官、元警視總監)氏が、7日午前9時46分、肺炎のため、長野県南佐久郡田町の病院で死去した。86歳だった。政界を引退後、元従軍慰安婦への償い事業をする「女性のためのアジア平和国民基金」の理事長を務めていた。葬儀・告別式は11日正午から、東京都港区南青山2の33の20の青山葬儀所で。喪主は妻光子(みつこ)さん。自宅は東京都豊島区目白2の5の2。

1936年に旧内務省入り。警察畑を歩み、戦後は警視庁公安部の創設に携わった。1961年に警視總監となり、東京オリンピック警備の陣頭指揮をとり、65年退任。公害防止事業団の初代理事長を経て71年の参院選で東京選挙区から自民党公認で初当選。連続4期務め、95年に引退した。81年、鈴木善幸内閣で環境庁長官。鳥取、島根両県にまたがる中海・宍道湖の淡水化に反対したほか、ナショナルトラスト運動の後押しをした。

92年、第20代の参院議長に就任。94年の細川内閣当時、小選挙区比例代表並立制を導入する政治改革関連法が参院で否決され、両院議員総会の末に成立した際の議長だった。

親分肌で温厚な人柄から「ハラブンさん」と親しまれた。戦後補償問題にも積極的に取り組み、サハリン残留韓国・朝鮮人問題議員懇談会の会長として一時帰国支援への道を開いた。

(13:41)

▼同ジャンルの他のニュース

- 元参院議長の原文兵衛氏死去
- 元グンゼ常務の酒向好生氏死去
- 元近鉄百貨店常務の井上善真氏死去
- 広島大名誉教授の清水英徳氏死去
- 元千代田証券会長の佐藤祐嗣氏死去
- 全日本仏教会会長の浜野堅昭氏の母…
- 元ジャパンライン社長の松永寿氏死去
- 武蔵野美術大学教授の吉田克朗氏が…



原文兵衛氏

住まいの
情報

おくやみ

おくやみ

おくやみ

asahi.com

「asahi.com」に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています(著作権とリンク、広告掲載についての説明ページへ)。

Copyright 1999 Asahi Shimbun. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.]

99. 9. 8. J. T. (2面)

OBITUARY

BUNBEI HARA

Bunbei Hara, a former president of the House of Councilors, passed away Tuesday morning due to pneumonia at a hospital in Usuda, Nagano Prefecture, his family said. He was 86.

Hara was hospitalized Aug. 23 after falling down at his villa in the resort town of Karuizawa.

Hara was first elected to the Upper House from Tokyo in 1971 after serving as the chief commissioner of the Metropolitan Police Department.



ment.

He served four consecutive six-year terms as an Upper House lawmaker and took the post of director general of the Environment Agency under Prime Minister Zenko Suzuki.

In August 1992, he assumed the presidency of the Upper House, a position he held for three years.

After retiring from politics in July 1995, he took charge of the Asian Women's Fund, an effort initiated by the government to financially aid women who were forced to provide sexual services to the Imperial Japanese Army during World War II.

原 文兵衛氏

声高に理念を語る人ではなかった。実務能力抜群の人でもなかった。七日でなくなった前参院議長、原文兵衛氏は、ただ固るだけでその場がまとまり、みんな安心するところの感じの政治家だった。

存在感あるリベラリスト

自民党が単独与党だった一九九二年に参院議長に就任。政界再編が進むなか、自民党の立場は野党、そして連立与党とくるくる変わった。だが原さんの周りには与野党の議員が集まった。当時の参院議員は一国会の状況が思わしくない時、こちろが頼みすると、黙って議長室に残ってくれた。本心に存在感がある人でしたという。

「慣例からいっても参院の立場からいっても、議長は否決ですね」と議長室で念押ししたら「うん」とうなずいていた。旧内務省に入省。最後は東京オリンピックの時の警備總監だった。経歴そのものが「警察の歴史」で、戦時中の東京大空襲や憲兵に連行されたエピソード、前線指揮をとった血のメー



も、さまざまな論議を呼び、たれもがためらう仕事だ。参院時代、原さんは旧社会党の五十嵐広三氏と一緒に、戦前、日本によってサハリン(旧樺太)に連行された韓国・朝鮮人の帰還や、家族との再会を実現させる運動にかかわってきた。その際もあつて理事長に就任したが、五十嵐氏は「お願いした時、原さんは「分かりました」のひと言だった。政權の大物政治家の中で戦後処理責任を自覚して努力した唯一の人だと原さんという。

最後に会ったのは七月初めだった。いつものように「君たちもう飲めないのか。僕は八十六だよ」とは言わなかったが、水割りを手元に運んで、孫や子の世代になる記者の話に耳を傾けていた。(橋本 重)

記憶残るさい配り

斎藤十朗・参院議長 原さんは議長として参院改革と政治改革に強い意欲で臨まれた。参院改革では本会

議のテレビ放送や議事速報の発行に意を注がれた。政治改革は、細川連立内閣提出の閣議法案を参院本会議で否決した後、両院協議会を経て可決成立したが、原

議長のさい配りのは私の配原に今も鮮明だ。今の政界に必要な人 三木隆子さん(故三木武夫元首相夫人) 元従軍慰

安婦への償い事業をする基金の仕事で一緒でした。原さんの寛容な人柄と地道な仕事ぶりが好きで、協力してきました。少額でも基金が、いまの政界には必要だと思えます。

99.9.8. 読者(5面)

原 参院議長を悼む

前参院議長の原文兵衛氏が七月に亡くなった。七月初め、東京・目黒の原邸に於ての担当記者たちが集まり、光子夫人の手料理で夜遅くまで飲み、語り合ったのが、原氏に会った最後だった。

この原氏を囲む会は七八年続いていた。四年前の政界引退後も途切れることなく、持ち場が変わり地方にも散らばった記者たちが年一回集まり、旧交を温める場になっていた。

時の流れの速い水田町で、政界引退後も長く記者との交流が続く例は珍しい。「ハラブンさん」と親しまれ、記者だけでなく年野議員から市民団体まで幅広い人望が厚かった原氏だからかもしれない。

原氏はいわゆる「警察官」の出身。旧内務省に入り、全国の特別高等警察を束ねる警保局長として戦後を迎えた。戦後は警視總監まで務めた。温厚なイメージとは裏腹の、随分とわめての権威だが、この権威を厳しく問うた同僚した

優しく、厳しく——戦後処理に腐心

とくに、政治家・原文兵衛の真骨頂があった。

参院議長に選ばれた後には、朝鮮人やサハリン残留問題、朝鮮人問題など戦後処理問題に熱心に取り組んだ。とくに晩年は戦時中の従軍慰安婦に対する事業を行う「女性のためのアジア平和国民基金」の理事長として奔走した。

「難しいが、だれかがやらなければいけない」と言って引き受けた理事長の仕事は困難を極めた。難航する政府側と有識者、市民団体の意見調整を粘り強く続ける姿に、基金に関係したある労組幹部は「学生運動をしていた当時、警視總監だった原さんは鬼のような人と思っていたが、あんな誠実な人だと初めて知った」と驚いていた。

今、神奈川県警の不祥事が問題となっている。同県警本部長も務めた原氏が古巣の警察のことをいつも気にかけ、「警察は常に市民から信頼され『気は優しく力持ちのお巡りさん』でなくてはならない」と語っていたことを思い出す。合掌。

(前木 理一郎)

99.9.11 北海道新聞



亡くなった原先生
・元参院議長・自民党
・東京・港区の青
山荘で亡くなった。
生前の活動に心
から感謝申し上げます。今後どう
か天国から私たちのことを見守って
ください」

多数の甲斐、韓国の中ソ離散家
族会とロシアのサハリン韓人協会か
ら寄せられた一通も交じていた。

日本は、戦

前から戦中に
かけて多くの

人たちは朝鮮半島から強制連行や出
稼までサハリンに送り込んだ。しか
し戦後、韓国の勢力を放った。

中ソ離散家族会が韓国に残された
留守家族で組織され、韓人協会がサ
ハリンの関係をめぐっている。

原さんは一九八七年、この問題の
解決に向け超党派の国会議員で結成
されたサハリン残留韓国・朝鮮人間
問題協議会の会長を務めた。

モスクワやサハリンに足を運び、
戦後処理問題に積極的だった外務省

にも働きかけ、永住帰国の道が開か
れるきっかけをつくった。

「原先生の存在は大きかった」。

事務局長として共に活動した五十嵐
広三さん（元官房長官）は、政権政
党の重鎮が本気になって取り組んだ
時の影響力をそう振り返る。

菅原総監も歴任した原さんは旧内
務官僚。終戦時には特別高等警察を
管轄する警保局保生課にいた。

「下級官になったとはいえず、当時

老政治家の死

の政府の二局
としてこの種
の問題には真

任を持たねばならぬ」とい

サハリン問題にかかわるきっかけ
を、原さんは生前そう語っていた。

その後、元駐米大使館を対象とし
た「女性のためのアジア平和国民基
金」の理事長を引き継いだのも、同
じ理由からだった。

参院議長になってからも被害者の
面会を断けず、日本の責任を問う厳
しい声でもしつと耳を傾けた。戦後
五十四年の夏、被害者の様々を知ろ
うとした一人の老政治家が逝った。



中国の中華全国青年連合会の代表による教唆で、7月の訪平時に表明した中国緑化基金構想への謝辞を返して3000リ

から午前9時12分、公邸で
「午別」を聴く。13分、執務室
へ。「東ティモールでは情
勢がかなり悪化しているよ
うだが」「いすれにしても
も安全が確保されて、選挙
結果に対して一日も早く正
常化されることを望
みます。インドネシア軍
国連その他の対応が積極
的で、両国は慎重かつ必要
的に対応する必要がある
。15分から42分まで、

河野、50分から3時まで、
マレーシア元総裁、小此木八
郎、青嶋俊光、来臨演説。1
分、自民党横浜支部連合
会、政策研究委員会「三
角周」4分。30分、日
本交通銀行、31分、ロイ
ター、32分、官報、10分、4
時59分、官報、10分、執
務室。「横須賀の総裁選
に、何れも落選したと想定
は、「1」生懸命です。願
望に「取組」。

53分、執務室、54分、

東ディモ-
情

【午後】0時2分、大ホールを出て、3分、大食堂へ。4分、都道府県知事との昼食会開始。21分、昼食会を途中退席して大食堂で、22分、執務室へ。この知事の話の聞いては「いろいろな時話が出たけども、国を

官が同席。5時14分、都道府県会館発。
6時29分、埼玉縣川口市川口の川口総合文化センター着。「小池三三自民党総裁激励支援大会」に出席、あいさつ。7時15分、同所発。
8時5分、千葉市美浜区ひび野の幕張プリンスホテル

分權で、国と地方が互いに連携してやることが大事だから、お

ル著。「小渕憲三自由民主
党総裁の再選を實現する千
葉県大会」に出席、あいさ

きでとていい機会
た」。27分から46分主
酸丹寧・中華全国青年
会副主席らが授勲。野

9時23分、朝張プリンスホテル発。55分、公邸着。

48分から57分まで、
宗男官房副長官。58分、
務室を出て、59分、
能。「モノトリです」

れ3千人ぐらゐ集まつてこ
れた。党員、党友の皆さ
で心強い。(3期)それ

孫で、『鉄道員（ぽやん）』で主演した高倉さんが主演男優賞を受賞が、「それはよか

思う。3千人が10人に話
てくれれば満蒙になる。
(亡くなった) 原文兵衛さ
んだが、長年こわつて

おめでとう。原作は
けど、映画は映画で
な監督の下だけに
しい演技というか、

界、官界で活躍されて、若い歳で幅広い尊敬を集めていた。政界を引退された後、アジア女性基金の調

うか、高倉さんあつ
『ほっほや』じゃな
かな」。

部長として、いわゆる従軍慰安婦問題に取り組まれた。また、サハリンの韓人の問題に尽力された。こ

などみらいの横浜ロ
パークホテル・ニ
著。「小淵総政の南

申し上げる。立派な男だ。

MEMORIAL 蓋棺録

イタリア・オペラの一員として
来日し、日本でもお馴染み

アルフレド・クラウスさん

世界のオペラ界を代表するテノール歌手で、その美声はオペラ・ファンを魅了した。特に世界のプリマドンナだった故マリア・カラスさんとのコンビは、絶賛を浴びたものだった。一九二七年、スペイン領カナリア諸島のラスパルマス島で、オーストリア人の父、スペイン人の母との間に生まれたクラウスさんは、バルセロナとバレンシアで音楽を勉強。ミラノでメルセデス・ロバルトに師事して、五年にマドリッドで全願のデビューを果たした。

その才はすぐに花開き、五六年にジュニア国際音楽コンクール第二位、同年でデビューした。ヴェルディの「ト」や、モーツァルトの「ド」などを十八番にし、五・ガーデン王立オペラ、ノ座など増舞台に上

がった。六二年にシカゴのリリック・オペラで米国デビューした後、六八年にはニューヨークのメトロポリタン歌劇場で金蘭の舞台を踏んだ。その後、メトロポリタンを中心に世界各地の歌劇場や音楽祭の花形として、通算四十年以上にわたり、活躍を続けてきた。

正統派のオペラ歌手として、晩年はブラシド・ドミンゴら「世界三大テノール歌手」に対しても「オペラの品位を落とした」と厳しい批判を浴びた。享年七十一。息の長い歌手の人生としてはまだ、早い退場だったのかもしれない。



親分肌で温厚で、八一年、鈴木善幸内閣で環境庁長官を務めた
原 文兵衛さん

警察官僚や旧内務官僚から政治の世界へ。このコースをたどった政治家は、後藤田正晴元官房長官ら少なくないが、原さんもその一人だった。一九三六年に旧内務省入りし、警察畑を歩んだ原さんの一つの晴れ舞台が、六一年に警視總監となり、六四年の東京オリンピック警備の指揮をとったことだろう。無事その大役を成し遂げ、六五年に退任した。公害防止事業団の初代理事を経て、政界入り

したのは七一年のこと。激戦の参院東京地方区（現選挙区）から自民党公認で初当選。以後、四期にわたって参院議員を務め、九五年に引退した。

とかくコワモテの警察官僚出身の議員の中で、終始笑顔を保ちやさない温厚な人柄は、広範な人に愛された。九二年、第二十代の参院議長に就任。九四年の細川内閣当時、小選挙区比例代表並立制を導入する政治改革法が参院で否決され、両院協議会がもたれた際の議長を務めるなど、戦後政治史の一幕を飾る役柄も果たした。日本ナショナル・トラスト協議会会長、女性のためのアジア平和国民基金理事長のポストを引き受けるなど、親分肌で温厚な人柄だった「ハラブン」さんは、惜しまれながら八十六歳でその生涯を閉じた。



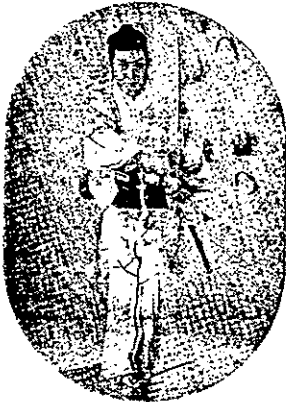
「旗本退屈男」の早乙女主水之介はまさに分身だった

市川右太衛門さん

映画「旗本退屈男」シリーズ（下の写真は、その一場面）で大スターの座を不動のものとし、日本の時代劇の全盛期を築いた市川右太衛門さんが、九月十六日、九十二歳で亡くなった。五歳で日、踊を

学んだが、銀幕へのデビューは一九三五年のこと。関西歌舞伎の市川右団次に師事し、市川右一と名乗っていた世界から、映画制作のマキノプロに転じた。「黒髪地獄」でデビューした後、「鴉門秘帖」などに出演。一躍美剣士スターの座にかけのぼった。その後、独立プロを興し、三〇年には無声映画で「旗本退屈男」の第一作を制作。続いて、新興キネマ、大映のスターとして活躍した市川右太衛門さんは、阪東妻三郎、片岡千恵蔵、嵐寛寿郎さんとともに、「時代劇の四大スター」と称された。

殿様然のりんとした風貌やトレードマークの肩間の三日月傷、派手な殺陣で時代劇の表舞台に立ちつづけた市川右太衛門さん。六四年の「忍び大名」を最後にスクリーンから離れた。だが、後継者ともいえない「男の俳優・北大路欣也さんに対しても、「まだまだ色気なら私の方が上だよ」と、天下御免の大スターの誇りをいつまでも失わなかった。晩年に自宅付近を散歩するときは、ぴちっとネクタイと帽子で決めた出で立ち。ファンの夢を大事にした花形役者が一人、大舞台から静かに退いていった。



写真提供◎アルフレド・クラウス氏（WWP）、市川右太衛門氏（共同フォト）